日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌　［アクエドゥクト］

acueducto

La revista española en Japón

¥0

GRATIS/第11号

30-noviembre-2012

www.acueducto.jp

Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

特集　牛追い祭りの街、パンプローナ

スペイン牛追い祭り2011-2012

サラサーテ ～パンプローナが生んだ天才ヴァイオリニスト～

ヘミングウェイ ～アメリカの大文豪誕生の地・パンプローナ～

パンプローナの「肉食系」グルメ ―牛追いの街で牛肉を喰らう―

SABOR A ESPAÑA VOL.1

スペインを丸ごと楽しむイベント
サボール・ア・エスパーニャ　第1回

【開催日】 2012年12月21日(金)
【開催場所】 大阪市中央公会堂・大会議室
【住所】 大阪市北区中之島1丁目1番27号
【アクセス】 地下鉄御堂筋線/京阪電鉄「淀屋橋」駅下車
<1>番出口から徒歩約5分
地下鉄堺筋線/京阪電鉄「北浜」駅下車
<22>番出口から徒歩約6分
京阪電鉄中之島線「なにわ橋」駅下車
<1>番出口から徒歩約1分
【内容】 スペインに関する講演①バスク料理について
②スペイン語と日本語の世界観の比較、
スペイン語の書籍＆雑貨販売、
留学案内、スペイン短編映画上映、
入門者のためのフラメンコ完結レッスンなど
【入場料】 500円（1drink付）

【問合せ】 スペイン文化協会
TEL. 06-6346-5554

Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

スペイン・バスク料理会

美食の街として知られるサン・セバスティアン出身の講師が、
家庭でも簡単に作れる料理を伝授します。

【メニュー】ピンチョス（Pintxos Vascos）
イカ墨のパエージャ（Arroz Negro）
丸ごとリンゴのオーブン焼き（Manzanas Asadas）
【日時】2013年1月24日（日） 11時～15時半
【場所】クレオ大阪西 クラフト調理室
【参加費】4,000円
【持ち物】エプロン、三角巾、ふきん
【アクセス】
JR環状線・阪神なんば線「西九条」駅下車、徒歩3分
大阪市此花区西九条6丁目1番20号
【お申込方法】
2013年1月23日（土）までに参加費とあわせてお申込下さい。
＊参加人数に限りがありますので、定員になり次第締め切りとなります。
【お問合せ】有限会社ADELANTE TEL：06-6346-5554

スペイン情報誌acueductoを無料でお届け致します！

スペイン情報誌acueductoをご自宅まで無料でお届け致します。ご希望の方は、以下を明記し、ファックス、郵送、E-mailのいずれかでお申込みくださいませ

① 氏名 ② 電話番号
③ ご住所 ④ 必要部数

【お申込先】
1. 郵送の場合 大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館2F 有）ADELANTE
2. ファックスの場合 06-6110-5122
3. E-mailの場合 info@acueducto.jp

基礎からしっかり学ぶ！スペイン語レッスン
話せる楽しさを実感しながら、スペイン語を身に付けよう！

新規開講入門クラスのご案内(各クラス定員４名)

【一般コース 全１２回/入門クラス】
月曜日 19:30-20:20 / 2013年1月21日-4月8日
金曜日 18:30-19:20 / 2013年1月25日-4月12日
入会金：15,750円 教材費：1,890円
受講料：42,840円（分納可）

初心者の方対象の新しいクラスなので、スペイン語が全くはじめての方でも安心してスタートできます！各クラス定員になり次第、締め切りますので、お早めにお申込ください。
学習経験者の方は是非一度レベルチェックを兼ねた無料体験レッスン（要予約）をお試しください。レベルに合ったクラスをご案内いたします。

www.adelante.jp
ADELANTEはスペイン語
スペイン語はADELANTE
【お問合せ】06-6346-5554

Avanzamos A1

日本のスペイン語
学習の現状を考慮した
新しいスペイン語テキスト
オールカラーCD付！
1,890円（税込）

お問合せ・御注文は
有限会社ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館 2F
TEL:06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122
Email： info@adelanteshop.jp

2012年12月27日まで
特別セール開催中
全商品15%OFF
www.adelanteshop.jpへ
今すぐアクセス！！

acueducto nº11

ESPECIAL 特集 5
牛追い祭りの街、パンプローナ
スペイン牛追い祭り 2011-2012 ／ サラサーテ ～パンプローナが生んだ天才ヴァイオリニスト～ ／ ヘミングウェイ ～ アメリカの大文豪誕生の地・パンプローナ ～ ／パンプローナの「肉食系」グルメ―牛追いの街で牛肉を喰らう―

GASTRONOMÍA グルメ 18
フェランから地中海へ、地中海から世界へ ～Tokyo Taste 2012・東日本大震災支援G9に参加して～

MÚSICA 音楽 22
アンダルシアへ -フラメンコギター留学記・その 2 -

SPAINRYUGAKU.jp スペイン留学. jp 26
FEDELE ANNUAL MEETING 2012 ／ スペインバスク サンセバスティアンでおいしい生活①

ESPAÑOL スペイン語 29
スペイン語講座(XI) 最上級構文について ／ はじめてのスペイン語講座 第11回 未来を表す言い方

VIAJE 旅 34
エコ・エスパーニャ（その 2）「身近な自然に学ぶ」

VARIOS その他 36
スペインのお勧めバール／レストラン 第 5 回 LA BODEGUILLA （ラ・ボデギージャ）／西宮市国際交流協会 スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介 ／ 第一回全国学生フラメンコ大会を終えて ／ ESPAÑA FOTO A FOTO - スペイン写真コンクール - ／「エル・グレコ展」大阪・中之島で開催中!

FÚTBOL サッカー 39
スペインサッカーを巡る -1-

LIBRO 本 40
スペイン語書籍のご紹介 ／新刊書籍のご紹介

ENSAYO エッセイ 43
マドリッドの夜(11)

NOVELA 小説 44
大海原

スペイン情報誌 acueducto
Director:
Shoji Bando 坂東省次

Editor:
Alejandro Contreras
アレハンドロ・コントレラス

Maquetación y diseño:
Ayako Wakita 脇田絢子

Colaboradores:
Yo Kawanari 川成洋
Kuniyoshi Nakai 仲井邦佳
Kaname Ikemoto 池本かなめ
Elena Contreras エレナ・コントレラス
Mikel Berradre ミケル・ベラデレ
Jesús Martín ヘスース・マルティン
Ángel Montilla アンヘル・モンティージャ
Abel Álvarez アベル・アルバレス

ADELANTE Co., Ltd
2FL. Chiyoda Bldg. West Annex
2-5-8 Umeda Kita-ku Osaka
530-0001 Japón

有限会社アデランテ
〒530-0011
大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館2 F
Tel：06-6346-5554
Fax：06-6110-5122
email: info@acueducto.jp
www.acueducto.jp

本誌の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。
本誌の内容および広告に関しては、発行元の責任の限りではありません。

Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

ご挨拶

スペイン情報誌「acueducto」第11号をお届け致します

Como anunciamos en el número anterior, la Exposición de El Greco se inauguró en Osaka el 14 de octubre. Para disfrutar de las 51 obras maestras provenientes no sólo de España, sino también de otros países, muchos aficionados a las Bellas Artes acuden en tropel al museo día tras día.

Fue en 1922 cuando la obra de El Greco llegó a Japón por primera vez. El cuadro fue "La Anunciación", que ahora se expone en el Museo de Ohara, en Kurashiki (Okayama). El Greco ya fue introducido por el pintor japonés Ichiro Yuasa en 1910, en la revista Bijyutu Shinpo. En 1905 Yuasa residió en España durante un año y medio y al volver a Japón apodó en una entrevista, publicada el 1 de abril de 1910 de la citada revista, a Goya, Rivera y Velázquez, además de El Greco, como "grandes maestros españoles".

Este nuevo número de ACUEDUCTO, se centra en Pamplona. En mi primera estancia larga en España, viví un año en esta ciudad; es mi segunda patria. Pamplona es un sitio lleno de historia y naturaleza. Espero que visiten esta bella ciudad.

前号でご案内しましたように、エル・グレコ回顧展が去る10月14日に始まりました。内外から集められた51点の傑作を見ようと連日多くのエル・グレコフアンが会場に詰め掛けているようです。

エル・グレコの作品が日本にはじめて上陸したのは、1922年のことです。作品は≪受胎告知≫で、現在、倉敷の大原美術館に飾られています。作品の日本上陸は1922年ですが、エル・グレコはすでに1910年に日本で紹介されています。紹介者は白馬会の画家、湯浅一郎です。氏は1905年から１年半、スペインに滞在しており、帰国後の1910年、白馬会系の『美術新報』誌上のインタビュー「西班牙画壇」（4月1日号）の中で、〈西班牙の古大家〉として、ゴヤ、リベーラ、ベラスケスとともにエル・グレコを紹介しています。

今号の特集記事はパンプローナです。パンプローナは私がスペインにはじめて留学した時に一年間過ごした都市で、私にとっては第二の故郷です。パンプローナは歴史と自然の豊かな町です。皆様方も是非とも一度訪れてみてください。

坂東省次

坂東省次 ばんどうしょうじ / Shoji Bando
京都外国語大学スペイン語学科長・教授。
京都セルバンテス懇話会代表。
専攻はスペイン語学、日西交流史。
近著に『スペインを訪れた作家たち』（沖積舎）がある。

www.facebook.com/acueducto.japon
@acueducto_japon

Colaboradores:

スペイン雑貨通信販売

www.adelanteshop.jp

スペインサッカーチーム　オフィシャルニットマフラー

価格　各 ￥2,730 - (税込)　【サイズ】140 X 20 cm

日本でも大人気の
スペインサッカー公式グッズ登場

1. F.C. バルセロナ
オフィシャル
ニットマフラー【紺】

2. F.C. バルセロナ
オフィシャル
ニットマフラー【赤】

3. レアル・マドリード
オフィシャル
ニットマフラー【黒】

4. レアル・マドリード
オフィシャル
ニットマフラー【白】

ニットキャップA
（F.C. バルセロナ）

5. オフィシャル
ニットキャップ
各 ￥ 1,890 - （税込）

ニットキャップB
（レアル・マドリード）

スペインのシンボルでもある牛を、
カラフルでポップなモチーフにした

TOROエプロン(大人用)

1

2. TORO エプロン B
￥2,730 - （税込）

2

1. TORO エプロン A
￥2,730 - （税込）

スペインの味をご自宅でも!

スペイン家庭料理の必需品！
直火可能な耐熱陶器

カスエラ CAZUELA

1. カスエラ　12cm ￥840 - （税込）
2. カスエラ　14cm ￥1,050 - （税込）
3. カスエラ　17cm ￥1,470 - （税込）
4. カスエラ　19cm ￥1,680 - （税込）
5. カスエラ　21cm ￥2,100 - （税込）

スペイン語クリスマスカード

スペイン語を勉強されている方や、
スペイン語圏のご友人にクリスマスカードを送りませんか？

A タイプ　B タイプ

クリスマスカード A-D
各￥350 - （税込）
【サイズ】 19 X 13 cm
＊白い封筒が付属しています

C タイプ　D タイプ

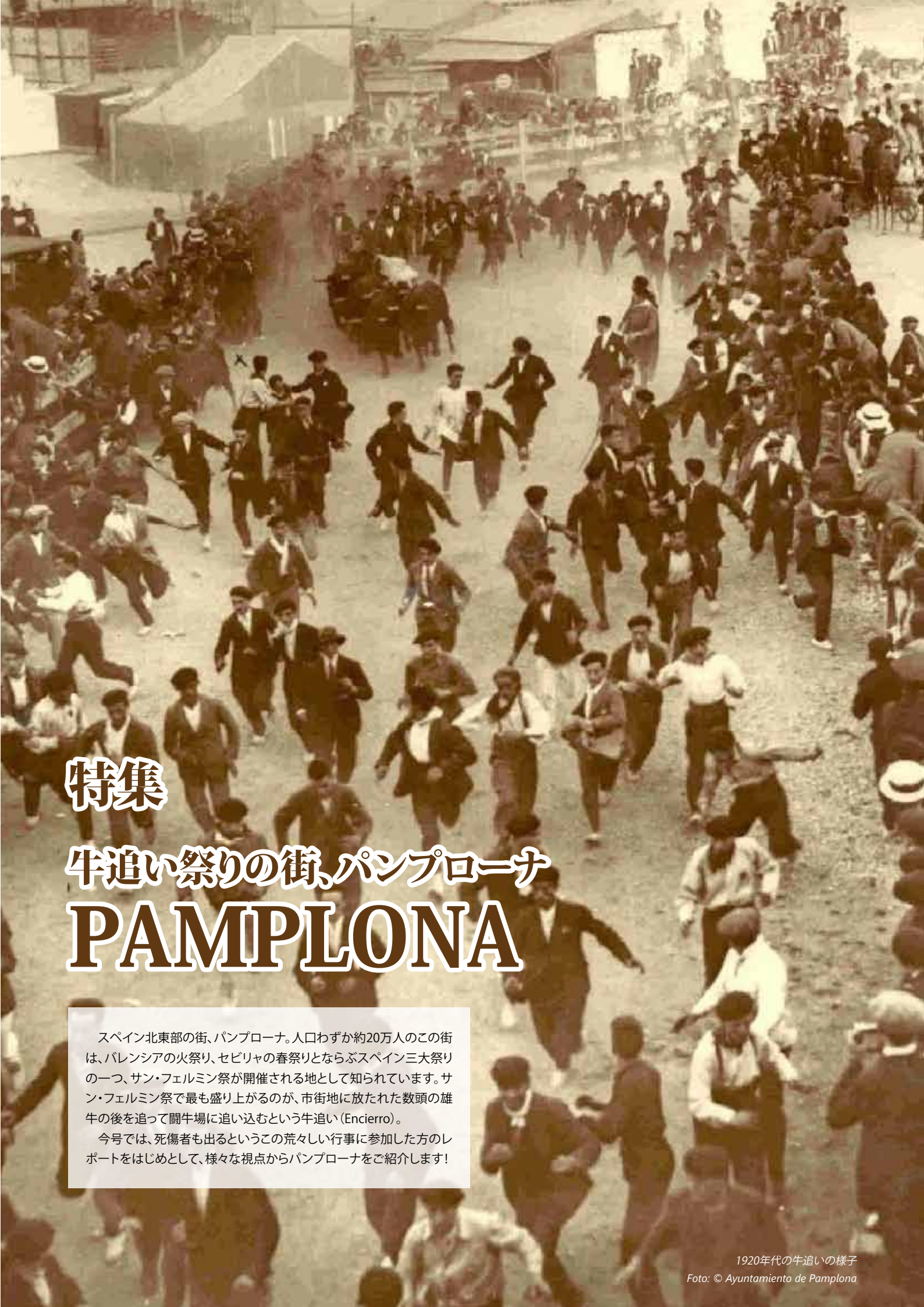
E タイプ　F タイプ

G タイプ　H タイプ

クリスマスカード E-H
各￥350 - （税込）
【サイズ】 19 X 13 cm
＊赤い封筒が付属しています

お問合せ・ご注文は以下までお願いいたします：

有限会社ＡＤＥＬＡＮＴＥ
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F
TEL:06-6346-5554　FAX: 06-6110-5122　Email： info@adelanteshop.jp



特集

牛追い祭りの街、パンプローナ

PAMPLONA

スペイン北東部の街、パンプローナ。人口わずか約20万人のこの街は、バレンシアの火祭り、セビリャの春祭りとならぶスペイン三大祭りの一つ、サン・フェルミン祭が開催される地として知られています。サン・フェルミン祭で最も盛り上がるのが、市街地に放たれた数頭の雄牛の後を追って闘牛場に追い込むという牛追い（Encierro）。

今号では、死傷者も出るというこの荒々しい行事に参加した方のレポートをはじめとして、様々な視点からパンプローナをご紹介します！

1920年代の牛追いの様子
Foto: © Ayuntamiento de Pamplona

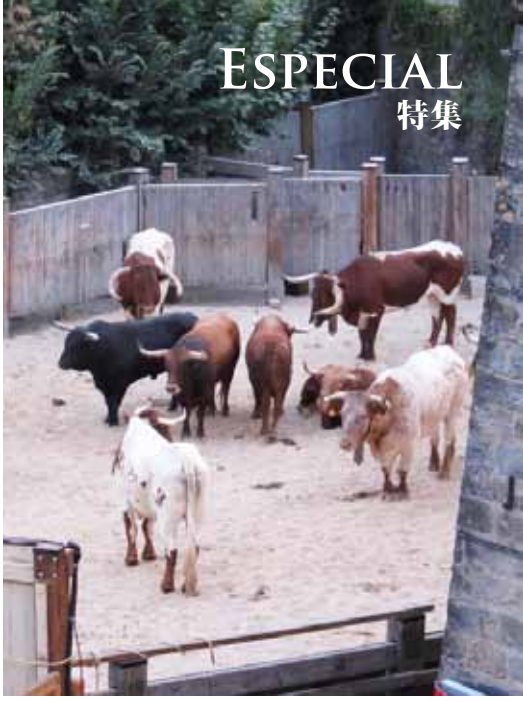
「牛追い」ゴール後の闘牛場内
全12頭がゴールすると闘牛場の門が閉められるので
完走するには牛より先に入場しなければならない。

スペイン牛追い祭り 2011-2012

フランスとの国境に近いスペイン北部の町パンプローナで、毎年7月6日から14日まで開催される「サン・フェルミン祭」の催しの1つに牛追いの行事がある。祭りの期間中、毎朝午前8時に荒れ狂う牛12頭を一斉に旧市街の路地に放ち、世界中から集まった血気盛んな者約1,000名が、全力疾走で約900メートル先の闘牛場まで追い込む行事である。濡れた石畳のコースは非常に滑りやすく転倒しやすいうえ、疾走中は牛も人も熱狂し凶暴になるため、牛追いに参加することは非常に危険で、連日怪我人が多く発生し、時には死者も出ることがある。「サン・フェルミン祭」では、他にも巨大人形と音楽隊のパレード等、老若男女が楽しめる催しが多数行われるが、牛追いの行事があまりに有名なため、通称「牛追い祭り」と呼ばれる。

牛追い開始1時間前のスタート地点。
奥の坂の下から牛が突進して来る。

沿道の「特等席」で見物する人たち。
1階は牛追い博物館。牛追いの疑似体験ができる。



「牛追い」まで囲い場で待機。
興奮することなく穏やかな様子。

何年も前から、なんとなくスペインへ行ってみたかった。この国のことはあまり知らなかったが、「フラメンコ」「闘牛」「情熱の国」といったキャッチフレーズから、人々が激しく生きる様を想像させ、とても魅力的な文化があると思えたからだ。

昨年の春、書店で何気に手にしたスペインを特集した雑誌を立ち読みしていると、ＴＶで見たことがあった「牛追い祭り」の記事に目が止まった。「この祭りってスペイン三大祭りの一つだったんだ。」と理解すると、「初スペインはこの祭りを見に行くのも悪くないな。」と不意に考えた。荒々しい祭りから「情熱の国」を垣間見ることができるのではないか？と安易に思ったからだ。それまで探していたスペインに行く「動機」が見つかった気分だった。

2ヶ月後の7月初旬、パンプローナへ飛んだ。成人なら誰でも「牛追い」に参加できることは知っていたが、死者が絶えない行事に参加する勇気は全くなく、コースに沿って設置された柵の上に開始3時間前から座って場所を取り、見物を決め込んだ。「牛追い」が始まると、牛と参加者があっという間に目の前を駆け抜けていったので、少々物足りなかったが、祭りの荒々しい雰囲気を味わえたので満足していた。

今年の春、昨年のスケジュールを確認することがあり、昨年の手帳を開いて眺めていると「スペイン航空券手配」の文字が目に留まった。「そうか、もうすぐ牛追い祭りなんだ。」と感慨を覚えると、昨年利用した飛行機とホテルの7月の空き状況や金額を何気なくパソコンで検索してみた。「空いてる。しかも円高で昨年より安い。」検索した画面を凝視していると、すでに見物してしまって全く関心がなかった祭りに、「今度は走りたい」という子供じみた思いがだんだん強くなり、それから3日後、後先踏まえず航空券とホテルの予約をしてしまった。

7月初旬の牛追い祭り参加の前夜、昨年同様、弾丸バスツアーに参加するため、集合場所である首都マドリードのあるホテルに向かった。夜10時にマドリードを出発し、翌午前4時にパンプローナに到着。その夕方4時にパンプローナを出発し、夜10時にマドリードに帰ってくるという乱暴な行程のツアーだ。祭り期間中、パンプローナのホテルの料金は通常の数倍に跳ね上がるため、現地での宿泊は現実的ではない。また「牛追い」が午前8時に始まるので、当日の交通機関を利用していては、近隣の都市からでも開始に間に合わない。そのため地元以外の参加者や見物人は、前日から未明にかけてパンプローナに入り、街中で「牛追い」を待つのだ。

午前4時、ツアーバスがパンプローナに到着し、目抜き通りで降ろされる。辺りはとても深夜とは思えない喧騒ぶりだ。街中のバルは軒先にテントを張り、割れんばかりの大音量で曲を流すクラブに変貌し、数え切れないほどの若者たちが踊っている。「牛追い」が行われる旧市街の路地はビールやワインを片手に酩酊した人で埋め尽くされ、近寄りがたいほど騒いでいる。祭りの連日連夜、世界中から集まった数万人が、乱痴気になって夜を明かすのだ。昨年は「とんでもないところに来てしまった。」と怖さを覚えた異常な光景だが、「今年もまた牛追い祭りに来たんだ。」という実感が湧き、期待と喜びに胸を弾ませた。

牛追い開始30分前のスタート地点。奥に向かって急坂を駆け上がる。
参加者は、まだまだ余裕の表情。

闘牛場内の大型スクリーンには疾走中に頭部を負傷した参加者の姿が。
牛追いの様子は毎日スペイン全土に生中継される。

© Ayuntamiento de Pamplona
I WANT YOU FOR
SAN FERMÍN 2012
– 6 AL 14 DE JULIO / UZTAILAREN 6TIK 14RA – PAMPLONA / IRUÑA –

© Ayuntamiento de Pamplona

Encierro

© Ayuntamiento de Pamplona

カメラマンが撮影した数十枚の写真が写真館で販売される。
疾走する牛たちの左側で、筆者が並走する写真を発見!!

見物の記念にと昨年購入した白の衣装と赤の腰巻を身にまとい、牛追い開始30分前にスタート地点に立った。もう何年も全力疾走なんてしたことがないため、怪我しないようにと念入りにストレッチをしていると、短髪で屈強な男が真剣な面持ちで話しかけてきた。「どこから来た？」「日本」「何回目だ？」「初めて」「転んだら下敷きになるぞ」「わかった、ありがとう」握手をして別れた。努めて冷静に振る舞っているが、緊張と興奮で目が回りそうだ。開始5分前、参加者一斉に丸めた新聞紙を上にかざし、守護聖人サン・フェルミンに歌を捧げ、勇気を鼓舞する鬨の声をあげる。ついに祭りの興奮は最高潮に達する。

午前8時、一発の花火を合図に、囲い場から12頭の牛が一斉に放たれた。先頭を切って3頭が横に並んで、あごを引き、角を向けて猛然と走ってきた。まるで尖った槍をくくり付けた軽自動車が突っ込んで来るような錯覚を起こした。もう無我夢中で走った。後れを取った群衆をかき分け、押しのけ、転んだ人を避けて、ひたすら走った。正気に戻った時は闘牛場の中だった。大観衆の拍手の中、完走できた者たちが互いの走破の無事と健闘をたたえ、息を切らしながら抱き合う。みな興奮のあまり手加減なく抱きつくので、とても痛い。だんだん興奮が冷めるうちに疲れを覚え始め、闘牛場の塀にもたれ掛かった。だが、のんびり余韻に浸っている時間はなかった。

闘牛場に追い込んだ牛が退場して「牛追い」は終了する。しかし、今度は走っていなかった元気な1頭の牛が場内に放たれ、ゴールできた者たちがそれを素手で取り押さえる「素人闘牛」という、さらに危険な行事が行われるのだ。度胸のある者は、闘牛士のように手に持った服を広げて牛を挑発する。牛は興奮し、前足で砂を掻きながら群衆を目がけて突進する。それを捕まえようとするのだが、丸腰の素人たちがかなうわけがない。牛と正面から絡んだ者は角で突き上げられ、吹き飛ばされ、倒れたところを容赦なく踏まれる。牛の首にしがみつこうとする者は、まるで宙を舞うように振り落とされる。それでも観衆に自分の勇気を示したい者たちが、次々と牛に向かっていく。数分すると、疲れた牛が退場して新たな猛牛が場内へ放たれ、格闘が繰り返される。「牛に触ると幸運が訪れる」という噂を事前に聞いていたので牛に触ろうと試みるが、近づくことすら簡単ではない。何頭目かで辛うじて背中を触って、後は逃げ回るばかりだ。10頭ほど牛が出入りしたところ、ようやく「素人闘牛」は終了した。もう、充実感と疲労でその場に座り込んでしまった。息を整えながら青い空を見上げていると、無情な係員に退場するよう促され、頼りない足取りで闘牛場の砂場を後にした。

祭りや過激な行事に興味がなかった私が、遠く1万km離れた、縁もゆかりもない国の危険に満ちた祭りに2年続けて行くとは思いもかけないことであったが、スリリングながらとても愉快な体験であった。また「牛追い」に東洋人が1人で参加していることが珍しいのか、実に多くのスペイン人が話しかけてきてくれた。そんな彼らの陽気で人懐こい振る舞いのおかげで、「牛追い祭り」の思い出が、さらに豊かになって私の心に実っている。

文・写真　尾﨑真之

（＊"© Ayuntamiento de Pamplona"の表示のある写真は
パンプローナ市役所提供）

尾﨑真之
おざきまさゆき / Masayuki Ozaki

1972年大阪生まれ。
今度はアンダルシア地方を気ままに旅したくて、ただいまスペイン語を勉強中。

サラサーテ

～ パンプローナが生んだ天才ヴァイオリニスト ～

素晴らしいヴァイオリニストは、演奏のみならず、その「姿」にも人を惹き込むものがある。ステージにすらりと立ち、右手に持った弓を自在にあやつりながら、左手の指は弦の上を華麗に駆けめぐる、というスタイルからして魅力的なのだが、時折、まるでなにかが降りてきて彼（彼女）の体に乗り移り、音楽を紡いでいるのではないかと思える瞬間がある。弦楽器はもともと呪術的側面が強い楽器だったそうだが、ヴァイオリンの演奏スタイルは特にシャーマン的、巫女的だという気がするのだ。

そんなイメージも手伝ってか、ヴァイオリンにおける超絶技巧はしばしば「悪魔的」と表現される。確かに、チェロやフルートやピアノでは、いかなる超絶技巧であっても「悪魔的」という比喩はあまり使われないし、似合わないのだった。

さて、ヴァイオリンの世界にも、「伝説」と呼ぶにふさわしいカリスマは多く存在する。そのなかでも「悪魔的」ということで語り継がれているのは、イタリア出身のニコロ・パガニーニ(1782-1840)だろう。その凄まじいまでの演奏テクニックは、「悪魔に魂を売って手に入れたに違いない」と噂されており、彼の演奏会に詰めかけた聴衆の中には本気で十字を切る者もいたとかいないとか・・・。

しかし、である。スペインだって、突き抜けた天才を数多く生んできた国！パガニーニと並び称される、伝説的ヴァイオリニストがいたことを忘れてはいけない —— そう、その人の名は、パブロ・デ・サラサーテ。

パンプローナ市内に建つサラサーテ（1844-1908）のモニュメント
©Turismo de Navarra

彼の代表作《ツィゴイネルワイゼン》は、もはや「ヴァイオリン曲の代名詞」と言っても過言ではないほどにポピュラーである。饒舌な泣き節、徐々に高揚していくエキサイティングな曲調・・・即興的趣向にあふれ、耳でも目でも名人芸が楽しめる不滅の人気曲だ。しかし、「ジプシーの歌」という意味を持つこのタイトルがドイツ語であることからもわかるように、この「ジプシー」はスペインの「ヒターノ」ではない。作品の素材となっているのはハンガリーの民謡や音楽形式、ジプシー音楽であり、残念ながら、スペインとは関係がないのであった。（こんな些細なこと一つとって見ても、様々な国に生きる多様なジプシーの人々を「ロマ民族」という言葉でひとからげにしてしまうのはいささか乱暴だと思えるのは、私だけだろうか？）—— ともあれ、この《ツィゴイネルワイゼン》のイメージが強烈なためか、作曲者がスペイン出身だということにはあまり目が向けられることがないように思われる。これは、サラサーテの作品がいわゆる「スペイン国民楽派」などのくくりに収まらず、国際的に広く受け入れられ名声を得ている証でもあると思えば、むしろ喜ぶべきことなのだろう。しかし、彼が書き残した作品のうち半数近くは、実はスペインに素材を求めたものだということは意外に知られていない ——

パブロ・デ・サラサーテは、1844年パンプローナに生を享けた。軍楽隊の音楽家だった父はいちはやく息子の才能を見抜き、町一番の名教師のもとでヴァイオリンを習わせた。その期待に違わず「神童」となったサラサーテは、7歳のときにすでに公開演奏会を行って周囲を驚嘆させている。1855年にはスペイン女王イサベル2世の御前で演奏、彼のヴァイオリンにいたく感激した女王から奨学金を授与されることとなり、少年サラサーテは晴れてパリに留学する。若干11歳でのことだった。

パリの名門コンセルヴァトワールを優秀な成績で卒業すると、サラサーテは本格的にヴァイオリン・ヴィルトゥオーゾの道を歩み始める。その演奏活動はヨーロッパのみならず、南北アメリカ大陸にも及び、行く先々でセンセーションを巻き起こした。もしかしたら、彼の作曲家としての顔は、「ヴァイオリニスト・サラサーテ」をさらに魅力的にし、聴衆に喜んでもらうためのサービス精神の現れだったのかもしれない。

では、彼の演奏のどんなところが、人々をそんなに魅了したのだろう？

前述したパガニーニは1840年に世を去っているため、サラサーテの生きた時期とは重なっていないけれど、「ヴァイオリンの魔術師」の記憶がいまだ消え去らぬ頃のこと、「パガニーニの再来」と呼ばれ比較されただろうことは想像に難くない。事実、こんな批評が残っている。「サラサーテは、パガニーニのように情熱的で柔軟な演奏スタイルを備え、また彼のようにヴァイオリンを自由自在に扱うことにも長けているが、サラサーテの美質は、パガニーニの持つ火のような激しさよりもむしろ、繊細さにある」—— そして、その有機的な音楽性と、彼だけが持つ美しい音は、なんとも自然にヴァイオリンから引き出されたのだという。現在残されているサラサーテ本人の演奏音源はわずかで、状態も悪く、その片鱗を垣間見る（聴く）ことしかできないのだが、確かに、「タランテラ」などを聴いてみると、猛スピードで飛ばして鮮やかに演奏しているにもかかわらず、常に自然で、聴衆にストレスを感じさせない。このキャラクターを「スペイン的」とこじつけるのはあまりに安易だけれど、彼の演奏を聴衆が心地よく楽しんでいたことは間違いのないところだろう。

サラサーテの優れた演奏に、同時代の多くの作曲家たちも触発され、次々に名曲が生まれた。たとえば、サン＝サーンスの《ヴァイオリン協奏曲第１番》（1859年）や《序奏とロンド・カプリチオーソ》（1863年）、ラロの《ヴァイオリン協奏曲第1番》(1874年初演)と《スペイン交響曲》（1874年／初演は1875年）、ブルッフの《ヴァイオリン協奏曲第２番》（1877年）などなど、そうそうたる作品を挙げることができる。特に、ラロの《スペイン交響曲》の成功は、フランスを中心に盛り上がった音楽界におけるスペイン・ブームの先駆けともなったのだった。

サラサーテの演奏プログラムは、古典的な作品、上記のような同時代の作品、そして自作の3本柱で成り立っていた。自作の中でも、ビゼーの歌劇《カルメン》から素材をとった《カルメン幻想曲》は、《ツィゴイネルワイゼン》と並び人気が高いが、それ以外のスペイン的な作品で知られているのは、4冊（8曲）からなる《スペイン舞曲》だろう。これは、ブラームス

サラサーテ遊歩道　Paseo de Sarasate

ホテル　ラ・ペルラ（左）

の《ハンガリー舞曲集》やドヴォルザークの《スラヴ舞曲集》の成功で味をしめたドイツの出版社ジムロックからの依頼で書かれたもの。単独で演奏されることも多く、軽快な足さばきが目に浮かぶような〈サパテアード〉を筆頭に、〈マラゲーニャ〉〈ハバネラ〉〈ホタ・ナバーラ〉など、ヴァイオリン特有の華麗な技巧と、スペインならではのリズムや歌謡性を融合させた作品の数々は、いわゆる「スペイン臭さ」のようなものは薄められており、誰にとっても非常にアクセシブルな曲調を持っている。

そして、世界中を股にかけて活躍したサラサーテの、故郷への愛が感じられるのが、バスクやナバーラ、パンプローナやサン・フェルミン祭を題材にした曲の数々。それらは現在、ヴァイオリニストのレパートリーからはほとんど忘れ去られている感があるけれど、このような作品も再発掘していただけると嬉しいな、と思ったりする私なのだった。（いや、人任せにせず、私がそのお役目を仰せつかりましょう!）

7月のサン・フェルミン祭の頃になると、サラサーテはいつもパンプローナに里帰りし、町の人々のためにコンサートを行った。サラサーテが定宿にしていたのは、サン・フェルミン祭の夜祭りの会場であるカスティーリョ広場に面したホテル「ラ・ペルラ」。彼はその部屋のバルコニーから、ハンカチを振って挨拶し、広場に詰めかけた聴衆に向かって演奏を繰り広げたのである。人々は毎年、その時をいかに心待ちにしていたことだろう。

パンプローナの町は、彼の名を冠した「サラサーテ遊歩道」を境として旧市街と新市街に分かれている。

サラサーテは、サン・フェルミン祭とともに、「パンプローナの誇り」として今も生き続けているのだった。

文・写真　下山 静香

下山 静香　しもやましずか / Shizuka Shimoyama

桐朋学園大学卒。文化庁派遣芸術家在外研修員としてスペインへ渡り、マドリード、バルセロナで研鑽。スペイン各地に招かれリサイタルを行い、「スペインの心を持つピアニスト」と賞される。ラジオ、テレビ番組での演奏多数、これまでに4枚のCDをリリース。現在、スペイン・中南米音楽を含む多彩なレパートリーと柔軟な感性をもつピアニストとして活発な演奏活動を展開。さらに執筆・翻訳・講演・舞踊・トーク・・・とマルチにこなすユニークな存在として注目を浴びている。校訂・解説を担当した楽譜にグラナドス ピアノ作品集、アルベニス ピアノ作品集がある。桐朋学園大学非常勤講師。

Official Web Site サラバンダ　http://www.h7.dion.ne.jp/~shizupf

裸足のピアニスト・下山静香のブログ　http://ameblo.jp/shizukamusica

◆コンサート情報◆

下山静香＜スペイン・ラテンアメリカ 室内楽シリーズ＞第3回（マネジメント：コンサートイマジン）

＜フェデリコ・モンポウ　沈黙の響き、魂のうた＞　第5弾CD《モンポウ＆プーランク》リリース記念

12月13日（木）19時開演　東京オペラシティ・リサイタルホール

ヘミングウェイ

～アメリカの大文豪誕生の地・パンプローナ～

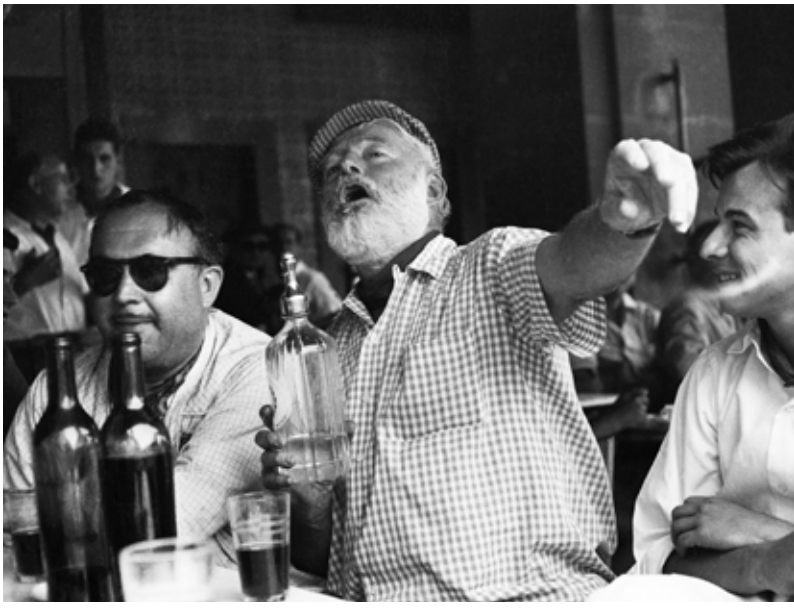
現代アメリカ作家のなかで、自分こそ最大の「イスパノフィロ」なりと公言して憚らないのは、ヘミングウェイ（1899～1961）を措いて他にいないであろう。

ヘミングウェイがはじめてスペインの大地に足を踏み入れたのは、1919年1月、アメリカ軍の負傷兵としてイタリア戦線からニューヨークに帰還する途中に立ち寄った英領ジブラルタルであった。この港町で数日過ごしている。ついで、21年12月8日、ニューヨークからフランスのル・アーブルに向かう途中、ほんの数時間だが、ガリシア地方のヴィゴ港に上陸した。船上から眺めたヴイゴの荒々しく男性的な印象は強烈だったようで、「疲れた恐竜たちが、海に落ち込んだように見える大きな褐色の山々」と友人あての手紙の中で述べている。逗留先のパリでは主にアメリカやカナダの新聞や雑誌のレポーターとして記事を書きながら、幸運にも、当時パリに集まってきた新進気鋭の作家たちに知遇を得ることができた。エズラ・パウンド、ジェイムズ・ジョイス、T・S・エリオット、ウェンダム・ルイスとった綺羅星の如き文士たち、そして何よりも、1903年以来パリに住み着き、例えば無名時代のピカソの才能をいち早く発見し、自分も前衛的な作家・詩人として活躍していた女流作家ガートルード・スタインであった。自分の感覚を、つよい言葉で生き生きと伝えようとした彼が、これらの先輩文学者たちから大いに啓発されるものを吸収したに違いない。果たせるかな、パリで駆け出しの記者生活をはじめてほぼ一年半後の、1923年7月、『3つの短編と十の詩』を処女出版する。

その一ヵ月前の、23年6月1日、最初のスペイン旅行の折に、マドリードで闘牛を初めて観戦した。この闘牛がヘミングウェイに「イスパノフィロ」へと大きく舵をきらせたのだった。後に彼は、闘牛観の集大成たる『午後の死』（1932年）の冒頭部に「生と死とが、つまり激烈な死が見られる唯一の場所は、戦争が終わった今となっては、闘牛場のみであり、ぼくは闘牛を研究できるスペインに是非出かけたくなった」と述べているように。

ところで、ヘミングウェイに、24年7月のパンプローナのサン・フェルミン祭行きを勧めたのは、ガートルード・スタイン女史であった。彼女は、アメリカ中西部から来た「何より、見て、感じて、嗅ぎ、聞き取るのが肝心」をモットーにしている23歳の文学青年の才能を直感的に明視したのだろう。翌年の7月にもまたパンプローナに出かける。この時の闘牛場見物で、ヘミングウェイは、友人が牛に突かれて倒れたのを助けだそうとして飛び出した途端に自分も突かれて怪我をする。幸い彼の傷はほんのかすり傷だったようである。この事件はシカゴの新聞に写真付きで大きく報道された。

写真：パンプローナでの滞在を楽しむヘミングウェイ　Fotos: © Ayuntamiento de Pamplona



こうしたパンプローナでのサン・フェルミン祭闘牛見物などを素材にした『日はまた昇る』を書き始めたのは、26歳の誕生日の、1925年7月21日であった。

『日はまた昇る』の語り手である「ぼく（ジェーン・バーンズ）」は、第一次世界大戦の負傷で性的不能者となり、新聞記者としてパリに留まり、同じく大戦に篤志看護婦として従軍したイギリスの貴族夫人レディ・ブレッド・アシュレーは大戦中に恋人を失い、その後、酒乱で浪費家の性格破綻者のマイク・キャンベルと婚約したがうまくいかず、バーンズを愛するようになるが、「サン・フェルミン祭」の終りの日に、19歳の美少年で、気品の高い闘牛士ペドロ・ロメロを誘ってマドリードに逃げる、といったラブ・ロマンスをメイン・プロットにして、第一次世界大戦に参戦し、戦後の人生に方向を見失い自国に安住できず、パリでデラシネの生活に浸っている「ロスト・ジェネレーション（失われた世代）」の姿を彼独特のスタイルで描かれている。結果的には「ぼく」とアシュレーの愛は本源的には不毛であることを明示することになるが、それでいて、最終部の二人の惜別には一種の明るさを感じられる。おそらくヘミングウェイは、一見この底知れぬ絶望や倦怠の真っ只中の「ロスト・ジェネレーション」に一脈の救いの余地を見出していたのではあるまいか。ところで、『日はまた昇る』では、サン・フェルミン祭がこう紹介されている（佐伯彰一訳、集英社、1977年）。

7月6日、日曜日の正午に、お祭りは爆発した。いや、爆発としか言いようがないのだ。人びとは終日、田舎から入り込んできたが、たちまち町に溶け込んでしまって、区別もつかない。広場は、つねに変わらず暑い日射しの中で静かだった。百姓達は、町はずれの酒屋に入っている。そこで飲みながら、お祭りを待ち受ける。

（中略）

午後には、大きな宗教行列があった。サン・フェルミンが教会から教会へと移される。この行列には、教会と町との、おえらい方みんなが加わっている。人混みがひどすぎて、行列も見えなかった。格式ばった行列の前後で、リオ・リオの踊り手たちが踊り続ける。群衆の中で、一段の黄色いシャツが上下に動いている。路地から歩道まで、いたる所をぎっしり埋めつくした群衆のあいだから、やっと見えたものといえば、大きな巨人、煙草屋用の三〇フィートもあるインディアン、ムーア人、王と王妃などの人形がリオ・リオの曲に合わせて、重々しく輪をえがきつつ、揺れ動いてゆく姿だけだった。（後略）

ヘミングウェイの最初の長篇小説『日はまた昇る』は、1926年10月に出版された。26歳の時である。初版は5000部だったが、非常な反響を呼び、年内に2万6千部を売り切って、イギリスでは『フィエスタ（お祭り）』というタイトルで出版された。これで「新鮮で、しゃれた」短篇の書き手に過ぎなかった、ほぼ無名の文学青年の名を一躍著名な長編作家に変貌させたのである。

こうして、パンプローナにおいて、ヘミングウェイは作家としての幸先良いデビューを果たしたのだった。

文　川成　洋

川成洋

かわなりよう / Yo Kawanari

１９４２年札幌で生まれる。
北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士過程修了。
社会学博士（一橋大学）。法政大学教授。
スペイン現代史学会会長。

主要著書
『青春のスペイン戦争』（中公新書）、『スペイン戦争ージャック白井と国際旅団』（朝日選書）、『スペインー未完の現代史』（彩流社）、『スペインー歴史の旅』（人間社）ほか。

パンプローナの「肉食系」グルメ
―牛追いの街で牛肉を喰らう―

パンプローナの典型的な"Asador"にて。この量で1～2人前である。付け合わせとしてナバラ州名産の赤ピーマンとポテトが添えてある。

スペイン北部、ピレネー山脈の西側にあるナバラ州は、豊かな食文化を持つことで知られている。州都のパンプローナは毎年7月に牛追い祭りが開かれることで世界的に有名であるが、それはまるでパンプローナの人々の「牛肉好き」を象徴しているようである。この街を歩いていると、"Asador"と書かれた「焼肉屋」を頻繁に目にする。「焼肉屋」といっても日本のものとは非常に異なり、大きな牛肉の塊を炭火で焼いてできた大ぶりなステーキ（chuletón）を塩だけでいただく。肉の焼き方も十分に焼くのではなく、レアが多い。極めてシンプルかつ豪快な食べ方であるが、これが実に美味しい。ワインの名産地としても知られるナバラ州では、焼肉を州特有の濃い目の赤ワインとともに食すのが一般的である。

ナバラ州産のパチャラン"Baines"。瓶のラベルにはリンボクの実が描かれている。

この地の伝統的な食事はこれだけでは終わらない。大量の牛肉を食べ終わると、決まって食後酒のパチャラン（pacharán）を飲む。この飲み物は、地元で採れるリンボクの実から作られる甘いリキュールで、アルコール度数は25%から30%ほどである。ワインの度数が約14%であることを踏まえると、ガツンとパンチの効いた「強い」酒であることは間違いない。現地の人々はこれをストレート、もしくは少量の氷を入れただけで飲む。寒さが厳しい冬場に飲むと体も温まり、格別の美味しさである。現地では家族や友人が集まる食事会が開かれると、人々は食後に会話を楽しみながら、パチャランを何杯もおかわりすることがよくある。パチャランは、既製品を飲むことがほとんどであるものの、より上質とされているのが、自家製のものである。筆者も両方飲んだ経験があるが、確かに自家製の方がより香り良く、何倍も美味しいと感じた。

ただ日本でパチャランを目にすることは、残念ながら一部のスペイン料理店などを除いてほとんどない。日本で大規模に売り出されたとして人気を博すかは分からないが、アルコール度数が比較的高いため、評価が分かれる可能性が高いであろう。

巨大な焼肉を喰らい、パチャランで締める。それは牛追い祭りに熱狂するパンプローナの民ならではの、まさに「肉食系」な生き方を表しているといえる。

文　写真　安田圭史

安田圭史
やすだけいし/Keishi Yasuda

1977年山口県出身。龍谷大学経済学部専任講師。
日本・スペイン・ラテンアメリカ学会（CANELA）理事。
専攻はスペイン現代史。
著書に『インターネット対応学習プログラム付き　スペイン語技能検定5級直前対策問題』（共著、南雲堂フェニックス）、『スペイン文化事典』（共著、丸善）、*Japón y la Península Ibérica: cinco siglos de encuentros*（共著、Satori Ediciones）など。

日西商業会議所　Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介いたします。

グルメなあなたにエスカルゴ ささっと簡単あたためるだけ

去年初めて出展し、今年の展示会にも引き続き出展した。「エスカルゴと言えばフランス」と知られる中、スペインのエスカルゴ：カラコーレスを伝統的な手作りソースで煮込んだスペイン独特の加工食品。日本では馴染の薄いものだが、ミネラルを多く含み、タンパク質は牡蠣や卵よりも多く含む。味もよくジューシーでワインのお供に、また、殻付きなのでパーティーにも良いと好評。「美味しい、珍しい、面白い」商品として注目され、去年いち早く輸入を決めたインポーターに、あるレストランからさっそく注文が入っていた。

エスカルゴのレシピ？ご心配は無用。プロだけではなく、家庭でも気軽に楽しめるのもいい。商品の中身を小鍋に移し、弱火で１０分から１５分温めるだけ。急の来客にさっとお出しするのもよし、ワインを片手にちょっと優雅な夜にも最適な一品。輸出先は東京共同貿易株式会社。詳しくはこちらまで http://www.tmtc.co.jp/

リオハ産アイスワイン

Ice Wine, made in Rioja Alavesa

リオハ・アラベサのワイナリーボデガス・ヒル・ベルサルは有機栽培にこだわる。数量限定のアイスワイン「バホ・セロ」は、収穫期のブドウ果実が0度になる夜に手作業で収穫された有機栽培ブドウ（ビウラ100%）から造られる貴重なワインだ。収穫期の気温次第で生産不可能な年もある。ステンレスタンクで90日間ゆっくりと発酵されたアイスワインはバランスのとれた淡く快いテイストと芳醇なフルーツの香りが特徴だ。

www.recoveco.es

スペイン情報誌 季刊『スペイン広報』

1985年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5

お問い合わせ先
日西商業会議所 / Cámara de Comercio Hispano Japonesa
www.camarajaponesa.es/jpn
camara@camarajaponesa.es ☎ (+34) 91 851 12 11
✉ Apartado 10124 – 28080 MADRID - SPAIN

スペイン留学で幅が広がった接客の仕事

「ケーキ屋さんになりたい」。多くの女の子が持つ夢が、思わぬカタチで発展。株式会社バハルボールが経営するスペイン料理店「エル フォゴン」のサービススタッフを務める坂田文さんは、明るく人懐っこい接客に定評があるとともに、2012年2月のスペイン留学をキッカケとしてスペイン語の勉強も開始。自らスペイン文化に深く関わるとともに、より幅広いサービスの実現に向けてチャレンジを続けています。

「接客は苦手」「知らない人とは話せない」…私はいわゆる“シャイガール”でした。そんな私が最初のアルバイト先として選んだのはケーキ屋さん。子どもの頃から「ケーキ屋さんになりたい」という夢があったからです。そこで生まれて初めて接客（販売）の仕事をしたのですが、意外にもお客さまと接することを楽しいと感じました。そこが私の接客業の原点でしたね。

大学卒業後、パン専門店に就職し、お客さまと接する仕事にやりがいを感じていました。でも、就職して2年ほどした時、もっとじっくり接客ができる仕事をしたいと思うようになったんです。パンの販売はお客さまと接する時間が短いですし、ご提案やご説明ができる商品にも限りがあります。お客さまとより長い時間を共有し、喜んでいただきたい…と考えた時にたどり着いたのが、「レストランで働こう！」という答えでした。

そんな中、友達に勧められたお店が株式会社バハルボールが経営するエル フォゴンだったんです。実際に行ってみると、料理はおいしいし、スタッフも楽しそうに働いているのがすごく印象的でした。そして「お客さまと近い距離でじっくり」という接客スタイルが、私のイメージに最も近かったので、その後、即、応募の電話を入れ、入社することになりました。2011年4月のことです。

エル フォゴンのホールスタッフになった当初は本来の人見知りの性格から、「お客さまにいつ、どう話しかけたらいいのか？」など、悩んだ時期はありましたが、だんだんレストランでの接客に慣れることができました。そしてもうひとつ「スペイン料理を扱うのだから、スペインをもっと知りたい。知識だけでなく、実際に行って知りたい」という気持ちが芽生え始めました。

バハルボールの社員には年に1カ月間のバケーションをとることができる制度があります。私のバケーションは2012年の2月でした。私はその期間を利用してスペインに行くことを決め、オーナーにも伝えました。すると、オーナーから「どうせならスペイン語留学してみないか？」という意外な提案をいただいたんです。スペインの食を中心とした文化をいろいろ見てみたいという気持ちがあったのですが、語学学校やホームステイ先のアテンドをすべて会社がバックアップしてくれるということだったので、語学留学にしようと決心しました。

留学先はバルセロナの語学学校。ノルウェーやドイツなどから来た人たちとともにスペイン語のレッスンを受けました。みんなフレンドリーですぐに仲良くなることができ、最初は互いの共通言語である英語で話していたのですが、日本ではある程度英語が話せるつもりでいた私が感じたのは、実際のコミュニケーションで使う英語（外国語）は、まったく別種のものであるということ。とてもいい経験になりました。また、ホームステイ先はひとり暮らしのおばあちゃんが3人の留学生を受け入れているところでした。こちらも最初は英語で話していたのですが、それではいけないと思い、辞書を片手に話をするようになりました。おばあちゃんが料理をしているところを見せてもらい、「それは何？」って聞いたりしながら、徐々にスペイン語に慣れていきました。

スペイン語が話せるようになったと感じ始めたのは、2週間の語学留学が終了する頃です。帰りに立ち寄ったマドリードのホテルの予約もスペイン語で電話予約することができました。また、その頃から急にスペイン語がより「わかる」「話せる」ようになり、留学の成果を実感。「留学期間中にもっと積極的に人に話しかけたらよかった」とか反省点はありましたが、初めての、しかも2週間少々の語学留学としては、収穫が多かったと思います。

帰国後も私はスペイン語の勉強を続けています。最初は独学でやっていたのですが、最近では会社の語学支援制度を利用して京都外国語大学のスペイン語講座に週1回通い、実際にスペイン人と接しながらスペイン語を学んでいます。また、接客の仕事にもスペイン留学の影響がありました。スペインではひとりでレストランに入ると、お店の人が「おいしい？」と気軽に声をかけてくれてすごく居心地が良かったのです。エル フォゴンでも外国人観光客のお客さまがたくさんいらっしゃいますが、私もそんな自然な接客を心がけるようになりました。

私がバハルボールに入社して1年半が過ぎましたが、スタッフがそれぞれに高いモチベーションを持っていて、「みんなが互いに引っ張って会社を盛り上げている」というところがいいですね。私は社員の中では若い方ですが、意見をどんどん言いやすい環境もあります。そして、2013年2月には2回目のスペイン留学をすることになりましたが、自分のスキルアップにつながる充実したものにしたいと思っています。（坂田文）

バルセロナのレストランのオーナーとの写真

写真下：語学学校の先生とクラスメイト

スペイン人スタッフとスペイン語が話せるスタッフ

坂田さんは、バハルボールグループのエル フォゴンにて元気に活躍中です。
詳細はウェブページをご覧下さい！ http://www.elfogon.jp/

スタッフ募集中！

ディレクター、店長・店長候補、アルバイト

企画力、サービス力、調理技術、語学力を活かしながら、
会社と一緒に成長していきませんか？

¡Vamos a trabajar juntos!

正社員2013年度春採用分スタートします。
アルバイト随時募集中

□待遇□

- ★ 各種社会保険完備
- ★ 正社員は1ケ月のVacationあり
- ★ 社員寮あり
- ★ 語学研修制度（スペイン語）スタートしました
- ★ 男性社員も育児休暇を取っていただきます
- ★ アルバイトから正社員登用もあります

未経験の方もしっかりサポート。安心してスタートできます。

□現在進行中のプロジェクト□

- ★ オリジナルパエリアの研究
  （パエリア専用のお米作り、大阪ガスとの専用コンロ作成）
- ★ スペインのワイナリーとのイベント企画　（新ワイン開発&ブレンディング）
- ★ 出張パエリア　（パエリアバスプロジェクト、被災地支援）
- ★ 新店舗計画

■お問い合わせ先■

株式会社バハルボール

TEL：075-212-5703 採用担当まで

詳細は、ホームページをご覧下さい。
http://www.bajarbol.jp/

◆勤務地

■ La Masa（ラ マーサ）
京都市中京区寺町二条下ル妙満寺前町446 若林ビル1F

■ EL FOGON（エル フォゴン）
京都市中京区御幸町御池上ル亀屋町380

■ La Gallega（ラ ガジェガ）
京都市東山区川端三条下ル東側大黒町137

■ FUIGO（フイゴ）
京都市中京区三条高倉東入ル桝屋町55 白鳥ビル2F

フェランから地中海へ、地中海から世界へ

Tokyo Taste 2012・東日本大震災支援G9に参加して

2012年9月東京で、料理に関わる二つの学会が合体した形でのイベントが催された。日本の経済状態も決して手放しで良好とはいえないこの時期に、これだけのイベントを決行した服部料理学園の服部氏には、心からの賛辞を表したい。

今回のイベントはスペインをテーマにしているわけではないのだが、イベントを通して主役の人たちのほとんどはスペイン人だった。言い換えれば、今世界の食について語ろうと思えば、スペインについて語らずには始まらないのである。そしてまた、日本について語らずには終わらないということも、今回の学会は教えてくれた。

東京でのG9のために集まったシェフたち
前列中央がフェラン・アドリア

緻密な理論と激しさを併せ持つバスク人、アンドニ

イベントの前半は「東京料理サミット」の第2回として、二人のデモンストレーターの発表があった。二人がそろってスペイン人であるというだけでなく、どちらもフェランの存在を色濃く受け継ぐ人であることにも注目してほしい。

アンドニ・ルイスはバスク地方の静かな田園地帯で、レストラン「ムガリツ」を経営するシェフ。フェランの影響を受けて最先端の料理の開発に取り組んできた若手シェフたちの最先鋒といっていい存在であり、理論派としても定評がある。

今回の発表でも彼は、自分の料理の成立のプロセスを緻密な理論構成で語り、聴衆を魅了した。彼の講演を聞くたびに思うことだが、自然との調和、科学との融合など21世紀の料理界のキーワードをすべてこれほどまでに見事に取り入れ、それでいて独自の世界を築いているシェフとして、彼ほどの人はいないだろう。

ただ今回、意外な一面を見せてもらったと感じたのは、彼のレストランが火事で焼失してしまったあとの再開の時のイベントのひとつとして、「既成の概念を壊す」という意味で自動車を一台たたき壊しているシーンが見られたことだった。既成の概念、あるいは既成の権力というものに長年にわたって抵抗してきたバスク魂とでもいうものを、一見穏やかなアンドニの中に垣間見た気のするーシーンだった。

そういえば、今回の発表で上映された「狩人の夢―マカロン」と題されたビデオも、動物を狩猟で追いつめ殺すことから、その血を使ったマカロンを作るというところまでをビジュアルにつないだ不思議な味の短編で、野性味と迫力にあふれていた。もしかしたら、アンドニは「学者めいた」という我々が作り上げてしまった彼のイメージに少々抵抗して、自分も狩猟民族の荒々しさを持っていることをアピールしたくなったのかもしれない。

蛇足になるが、今回のアンドニの発表を見ていて、料理という専門ジャンルの通訳の不足をまたもや痛感した。通訳としてプロであっても、料理用語、料理における言葉の特殊な用法などを知らないと、翻訳はしばしば本来の意味の逆にまで変わってしまう。スペイン料理界がこれだけ注目されている時代である。これからスペイン語を志す人がいたら、ぜひ料理専門の通訳・翻訳を目指すことを考えていただきたいものである。

アンドニ・ルイス

「狩人の夢・マカロン」

クリスティアン・エスクリバ

ダリも顔負けの「ケレン」を披露したクリスティアン

イベント後半のクリスティアン・エスクリバは、バルセロナの老舗チョコレート店の跡継ぎ。彼の父君アントニオも、才能あるエンターティナーであり偉大な発明家でもあった。フェランはこのアントニオと親交が深く、フェランの弟がデザートシェフになるために修業させてもらったのも、このエスクリバだった。菓子という仕事を「夢を売る」と定義して様々な遊び心あふれる作品を生涯発表し続けたアントニオは、真の地中海人であったと思う。

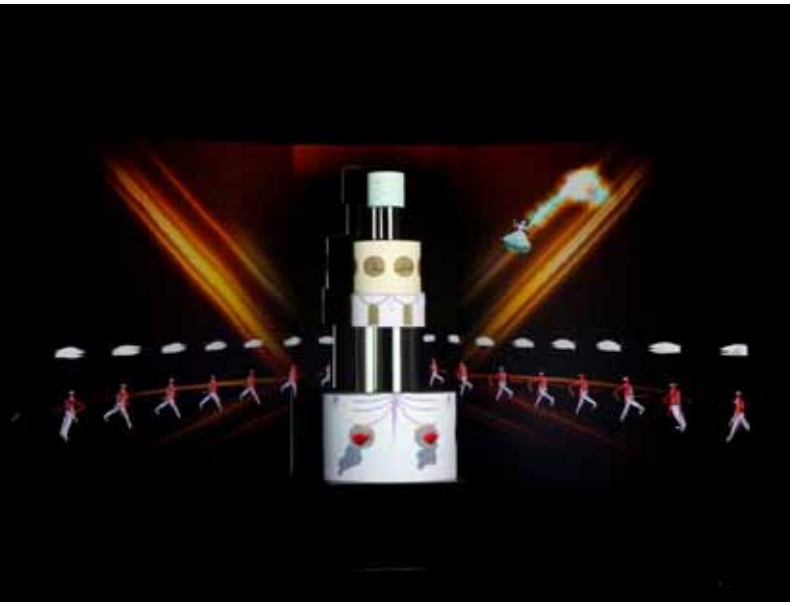
そしてクリスティアンも、「食べる壁」「爆発するケーキ」「「移動するウェディングケーキ」「３Dのケーキ」など、食べるという枠からはみ出した楽しい作品の数々を発表してきた。私は彼の作品から「ケレン」という日本語を連想した。歌舞伎に見られる派手な仕掛けにも似た、人の眼を驚かせる設定。それはカタルニアの鬼才ダリにも通じるセンスであり、そういう意味でクリスティアンもまた生粋のカタルニア人であることを証明してみせたのである。

「ただ食べるというだけではなく、人を幸せにすること」がモットーであると、彼は発表の冒頭で述べた。それはフェランとまったく同じスタンスだが、「食べることプラスアルファ」のプラスアルファの部分に、クリスティアンはフェランより過激な形でのソルプレサ（驚き）を選んだと言ってもいいかもしれない。

そう見て行くと、アンドニが選んだプラスアルファは「食べることプラス考えさせること」かもしれない。彼の料理が、彼の発想がたどった道筋を聞いてから食べるほうがよりインパクトのあるものになることが、それを証明している。

フェランのプラスアルファは、ある時は素直な驚きであり、ある時はひねりの利いたジョークであったりしたから、エル・ブジのお客のテーブルでは、皿をみて思わず笑ってしまう、あるいは一緒に食べている仲間が皆で感嘆の声を上げるといった光景は珍しくなかった。が、それは食べるという光景にふさわしいレベルの驚きで、料理が爆発したりするわけではなかった。彼の料理は、面倒な理屈をあれこれ考えて食べることを強要はしなかった。しかしまた、あとで振り返ってみるとじっくり考えさせられる料理でもあった。

今回の二人の発表は——アンドニの哲学もクリスティアンの大胆さも認めたうえで——フェランが不世出の天才であることを改めて感じさせてくれたのではないだろうか。



3D効果でステージのケーキに投影された画像

盆栽に飾られたオードブル（ジョアン・ロカ）

被災地訪問で歓迎されるシェフたち

社会に働きかける料理人たち

G9とは、スペイン・バスク地方にある料理専門大学「バスク・クリナリイ・センター」がオーガナイズする国際会議で、9つの国から9人のシェフが集まってこれからの料理界について語り合い、声明を出し、世界に呼びかけて行こうという趣旨の会議である。このグループの初代団長には、疑問の余地無くフェラン・アドリアが選ばれ、彼自身が9カ国を代表するシェフを選抜した。

このシェフの選抜について、フェランはこんな風にコメントしている。「ここに集まっている9人が、世界最高だとは言わない。ほかにも大勢素晴らしいシェフはいる。しかし少なくとも私が意図したのは、できる限り大きな影響力を持つシェフたちを集めることだ」

そして今回のシンポジウムの基調演説のなかでフェランは、「21世紀の料理界を、どう動かしていくか。その基本は食の教育にある。料理人を目指す若者たちの教育、一般の人々の教育。そのために我々は、自分たちの持つあらゆる知識やデータを提供する用意がある。」と述べた。

今、料理をひとつの社会的なテーマとして考える時代が訪れている。フェランと彼に続くシェフたちは、社会現象と呼んでもいいような一連の動きを食の世界の周辺に巻き起こした。料理人の社会的なステイタスそのものを変革した。料理人たちが料理の世界から外へと飛び出し、社会に対して影響力を持ち、社会を動かしていこうという時代が来ているのである。

そもそも、料理だけを教育するための大学を創立しようという地方があるとしたら、それはバスクしかないだろう。自分たちのガストロノミーの歴史への誇り、スペインの食に貢献して来たという自信がこの大学の理念を支えている。それは驚くべき、特筆すべきメリットと言っていいだろう。

そしてもうひとつ、参加メンバーたちのコメントを聞いて感じたことは、彼ら全員が日本への支援というはっきりした意図を持って来日してくれたのだなという嬉しい実感だった。

「バスク・クリナリイ・センター」の代表ホセ・マリは、こう語った。「料理の世界の様々な知識や情報は、次の世代に伝えて行くべき貴重な財産。G9は、その財産をどのように伝えていくかを考えていくために立ち上げた会議だ。そして何を伝えていくかという議題になったときに、多くのシェフたちが『日本の食文化を伝えるべきだ』と主張した。日本の食は素晴らしい。世界に教えてくれる様々な知恵が含まれている。そのことを今回の来日で私たちは再確認している。」

南米の代表からは日系の移民が多い国柄を反映して、日本人への応援のメッセージが熱く語られたし、被災地を実際に見ての衝撃と復興に向けての日本人の努力にエールを送るシェフも多かった。

一方、日本料理への関心、日本の食材への興味もほとんどのシェフが語った。たとえば、スペインを代表するシェフとして今回G9に招待されたジョアン・ロカは、自分のレストラン「セジェール・デ・カン・ロカ」で出している料理から、日本の食材を使ったもの、日本の調理法を使ったものなどを写真で紹介した。現在世界のレストラン・ランキング２位のシェフが、自分の料理のなかにこれだけ豊富に堂々と日本的な要素を盛り込んでいるということは、多くの聴衆にとって驚きだったのではないだろうか。

「私がどんなに日本が好きか感じてもらえるのでは・・・」とジョアンが最後に見せたスライドは、小さなオリーブの盆栽の枝におつまみがぶらさがっている作品。「一人一人が、日本に対して自分なりのエールを送りたい」という今回のG9参加者に共通の思いを、くっきりと感じさせてくれる発表だった。

では、G9としてこれから何をしていくのか。「ヌーヴェル・クイジーヌから現在に至る料理の世界の進歩を、後進たちにきちんと伝えること。そのためにまず2014年を目標として、今までの料理の進化の歴史を体系的にまとめた本を作りたい。ネット上でもレシピや情報を配信する。もちろん会議に関わるシェフはどんどん増え、活動はさらに広がっていくだろう。」

旧弊で封建的な世界だったはずの料理界を、開かれた情報の世界、国境のない世界にするというフェランの構想は、見事に結実し始めている。そしてもうひとつ、これからの世界の食のシーンでは、日本の食文化が大きな役割を果たして行くというフェランの確信も証明されつつある。そんな印象を新たにした今回のG9だった。

これだけの大きな変化がスペインの料理界から始まっているということを、スペインの人々は多いに誇りとしていいだろう。その根底には、自由な精神と常に外へと向かう好奇心に支えられた地中海人ならではのエネルギーとパワーがある。たとえ、現在のスペインの経済危機がガストロノミーの進歩にいささか足止めをかけているとしても、動き出した食の世界は止まらない。前進していく。そう実感させてくれた今回のイベントに、心からの敬意を表したいと思う。

文・写真　渡辺 万里

渡辺　万里

わたなべまり / Mari Watanabe

学習院大学法学部政治学科卒。
1975年よりスペインで食文化史の研究に取り組むと同時に、スペイン料理界最前線での取材に従事する。
1989年、東京・目白に『スペイン料理文化アカデミー』を開設。さらに各地での講演、執筆などを通してスペイン文化の紹介に携わっている。
早稲田大学文化構想学部非常勤講師。
著書に「エル・ブジ究極のレシピ集」（日本文芸社）、「修道院のうずら料理」（現代書館）、「スペインの竈から」（現代書館）など。

スペイン料理文化アカデミー　http://academia-spain.com
〒171-0031 東京都豊島区目白4-23-2　TEL : 03-3953-8414
スペイン料理クラス、スペインワインを楽しむ会、フラメンコ・ギタークラスなど開催

アンダルシアへ
フラメンコギター留学記・その2

文・写真　関根彰良

「もっとやさしく、やさしく。」
セビージャのカステジャー通りにあるスタジオ。ダビ・“エル・ガンバ”のパルマクラス。
いい音を出そうと思わず力んでしまう私たちに対して、彼はいつも手の力を抜くように、そして唄や音楽に寄り添った音を出すようにと言っていた。

ダビはヘレス出身でセビージャ在住。ヘレスのフェスティバルで開講されていた彼のクラスが非常に良かったので、セビージャの通常クラスも必ず行こうと決めていた。一時間半のクラスを毎週3回、集中的に通った。

私が中3か高1くらいの時、ドラムに興味が湧いて、学校の軽音楽同好会の部室でひたすらドラムばかり練習していた時期があった。理由の一つに、他の楽器がどういうことをしているのかを知りたいというのがあった。自分がアンサンブルする楽器のことを少しでも知っていると、ギターを弾くことに何か良い作用があるのではないかと。今回パルマについて色々知ることができ「そういうことだったのか」という発見がたくさんあった。

それだけではない。ダビ曰く「おれのクラスは単なるパルマクラスじゃない。『レングアへ・フラメンコ』を教えているんだ」と。「レングアへ・フラメンコ」は「フラメンコの言葉づかい」といった感じだろうか。唄だけを聴いてコンパスを感じる練習や、踊りの細かい変化に応じてパルマのアクセントを変えるレッスンもあった。カンタオールでもあり踊りもやるダビならではのクラスだった。

私がスペインで受けた中で唯一の（個人ではなく）グループのクラスだった。若くて可愛い女の子の生徒が増えていくごとにダビのテンションが目に見えて上がっていくのが面白かった。彼を含めスペイン人は正直で、ピュアな人が多い。

セビージャはスペイン第四の都市。イスラム文化の影響を色濃く残す建築が数多く立ち並び、ヨーロッパ有数の観光地としても知られている。セントロではカメラを持った観光客の姿がいつも見られた。またフラメンコが盛んな街で多くのアカデミアがあり、世界中から留学生がやってきている。

ヘレスと比べるとかなり都会だ。しかしアンダルシア特有のゆったりした空気も持ち合わせている。木曜日の夜あたりからもうみな週末モードで、広場は飲みに出ている人々でごった返している。

セントロの北西にあるアラメダ地区は200～300メートルにわたって細長い広場のようになっており、人々はそこで犬を散歩させたりジョギングしたり読書したり思い思いに過ごしている。付近には雰囲気のいいバルが数多く立ち並び、私も良く足を運んだ。

5月下旬、金環日食。世紀の天体ショーに日本中が沸いた。残念ながらスペインでは見ることができなかったが、その2週間前のスーパームーンはこちらでもニュースになっていた。街を流れるグアダルキビル川のほとりから眺めた「シューベル・ルナ」の美しさはセビージャの思い出の一つとして記憶に焼き付いている。

セビージャではラモン・アマドール、ミゲル・ペレス、ホセ・‘フィティ’・カリージョ各氏のギタークラスを受けた。この場をお借りして感謝したい。

「音楽というか、フラメンコですね、あれは」
時は戻り2011年秋、東京・新宿のとあるカフェ。私はカンタオーラ小里彩さんと話していた。スペイン滞在経験のある小里さんを友人づてに紹介してもらい、留学のための情報を色々と仕入れていたのだ。

流れでモロンという街に話題が及び、そこの出身であるディエゴ・デル・ガストールのギターについて彼女が語ったのが冒頭の言葉だ。

音楽というか、フラメンコ。何気ない一言だったが、この一言は自分の記憶に鮮明に残っている。

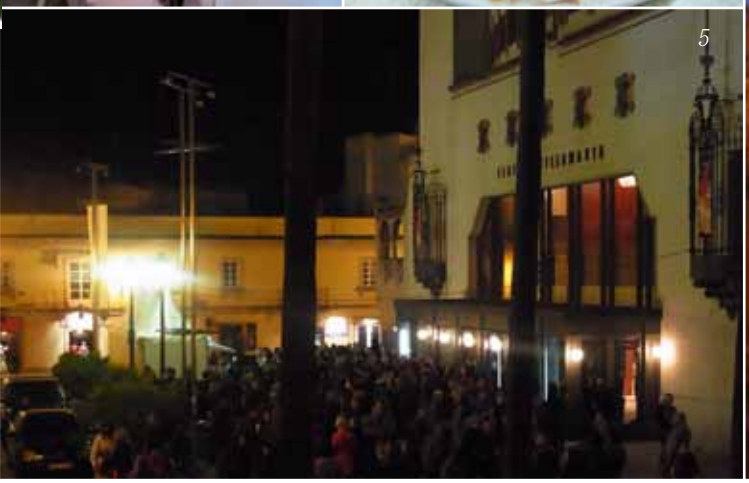
ヒターノにとってフラメンコとは、アメリカ黒人にとってのブルースに等しい。それは音楽以前に語りであり、詩である。漢詩の朗読、あるいは琵琶法師による語りに例えてもそう遠くはないだろう。

抑えきれない感情、魂の叫び。それらを表に出し伝える手段としてのフラメンコ。根っこにあるその部分を忘れてはいけない、と折に触れて思い出すようにしている。

日本人がフラメンコをやるというのは、スペイン人が歌舞伎の世界に飛び込むようなものだと私は思っている。今や他のジャンルの舞踊や音楽と幅広く交流し多様化しているとはいえ、一族で代々引き継がれている芸の世界に、よそ者が簡単に立ち入れるはずはない。まして育った文化や話す言葉の異なる外国人となったらなおさらだ。

勘違いしないで頂きたいが、そのことが悪いとか間違っているとか言っているのではない。かくいう自分自身もそれを試みている一人なのだから。先ほども書いたが現在フラメンコは世界で認知され愛されており、日本人含め非スペイン人の素晴らしいアルティスタも数多くいる。

フラメンコとの出会い。演奏家としての自分を肥やすための、ほんの寄り道のつもりだったはずが、かなり遠回りをしているような気がしないでもない。しかし直感に従って選んだ回り道こそが近道であり、自分の道であると信じている。ギターという楽器を軸にして出会った、偉大なる非西洋音楽・フラメンコ。



写真：1．大西洋岸の街、プエルト・デ・サンタ・マリアのバルにて。日本での金環食を祝って？カラマレス・フリトス（イカリング）を食す。2．カンタオールでありバルメーロであるダビ・エル・ガンバと。彼のクラスを受けたことは今回の留学の大きな収穫の１つ。3．ギタリスタ、ラモン・アマドールと。彼のコンパス（リズム）のスピード感に度肝を抜かれた。とても実りの多いレッスンだった。4．ヘレスのバルで食べたコーラ・デ・トロ（牛テールの煮込み）。柔らかくてとても美味しい！！これで2.5ユーロ（約300円）ほど。5．ヘレスのフェスティバルの最終日、テアトロ・ビジャ・マルタ前にて。ホアキン・グリロの公演の余韻に浸る人々の数はなかなか減らない。フェスティバルが終わるのを惜しんでいるようにも思われた。6．セビージャ、ヒラルダの塔。カテドラルと共に街の観光名所のうちの１つ。夕刻の空の青色との美しい対比に思わずシャッターを切った。

文化人類学者の川田順三が、作曲家・武満徹との対談で「三点観測」という言葉を用いている。氏にとっての三点とは、生まれの地である日本、学問を学んだフランス、そしてフィールドワークの地であるアフリカ。幾何学において、二点だけでは一本の直線しか定まらないが、一直線上にない三点は平面を決定する。その喩えよろしく、三つの視点から物事を見ることで偏りのないバランスのとれた自己を成立させるという氏の持論である。

日本人である自分は、ロックやジャズといったアメリカの音楽に魅せられ音楽の道を志した。今私に、新たな三点目が加わろうとしている。

これからフラメンコとどのように付き合い、どのように消化し、自分のこれまで演奏してきた音楽との間にどのような解を導き出すのか、自分でもまだ分からない。ただ一つ言えるのは、今回スペインに3か月間滞在して本場のフラメンコの魅力を肌で感じ、本当に良い体験をしたということだ。是非また近いうちに、訪れたい。　（終）

関根彰良　せきねあきら / Akira Sekine

ギタリスト
1978年5月5日生まれ。千葉県出身。幼少の頃よりクラシックピアノを始める。12歳でロックに興味を持ちギターを手にする。東京大学入学後ジャズに出会い、同大のジャズ研究会に所属しながらプロとしての演奏活動を開始する。文学部美学芸術学専攻を卒業。
2002年から07年まで西尾健一(tp)グループに在籍、アルバム『Go Ahead, Have Fun!』に参加し全国をツアーする。2009年夏にはNYで活躍中のAnat Cohen(cl, sax)の日本ツアーに参加。これまでの主な共演者は、前田憲男(p)、村上ポンタ秀一(ds)他多数。
クラシックギターを井上學、フラメンコギターを山崎まさし各氏に師事。
2011年HARU RECORDSよりファーストアルバム『FUZZ JAZZ』をリリース。発売記念全国ツアーを行う。現在、自己名義のソロ/トリオでのライブをはじめ、様々なセッションやレコーディング等、ジャズを中心とした幅広いジャンルで活動中。
公式HP　http://www.akirasekine.com/

ライブ情報：12/17(月)大塚DONFAN　関根彰良(guitar) 岩永真奈(bass) 望月敬史(drums)　20:30- ￥3000
(問) 03-3945-0529　http://www009.upp.so-net.ne.jp/donfan/
12/25(火) 横浜・関内JAZZ IS　関根彰良(guitar) 岩永真奈(bass) 福森康(drums)　20:00- ￥3000＋order
(問)045-681-5415　http://www5b.biglobe.ne.jp/~jazz-is/index.html

スペイン＆中南米への留学相談、手続き代行無料サービスのスペイン留学．ｊｐ

スペイン留学ガイド

地方ごと異なる特色を持った魅力溢れる国、スペイン♪
あなたはスペインと言ったら何を思い描きますか？
フラメンコ、サッカー、闘牛、白い家、サグラダ・ファミリアなど…
お気に入りの街が見つかれば、きっと、より充実した留学生活になることでしょう。
留学準備の第一歩は、学校を探すことから始まります。
ここでは、代表的な留学先をいくつか紹介していますが、この他にも多くの学校をご用意しております。
まずは、電話やメールでご相談下さい。スペイン留学．jpでは、カウンセリングを行い、一人一人のご希望に合った学校を提案いたします！

※料金は1€＝103円で計算した2012年11月のものです。入学金や宿泊先斡旋料、夏期料金等が加算される学校もございますので、詳細につきましてはお問合せ下さい。

サラマンカ

1218年に創立されたスペイン最古の大学があり、スペイン語を学ぶために世界中から学生が訪れる学生の街。トルメス川のほとりに広がる街には、カテドラル、大学、貝の家、マヨール広場など美しい建物が多く、旧市街全体が世界遺産に登録されています。

<ドンキホーテ　サラマンカ校>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース（20＋5時間/週）	200€ / 20,600円	3.840€ / 395,520円
☆ホームステイ（個人部屋・2食付）	185€ / 19,055円	4.440€ / 457,320円
☆共同アパート（個人部屋・食事なし）	150€ / 15,450円	3.120€ / 321,360円

セビーリャ

太陽と青い空が似合うスペイン南部、アンダルシア地方にある歴史的な街。スペインの三大祭りのひとつである、春祭りでも有名です。バスや電車で少し足を延ばすと、まるで絵ハガキのような白い村が点在し、陽気でのんびりとした空気を肌で感じることができます。

<クリック・インターナショナルハウス　セビーリャ校>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース（20時間/週）	175€ / 18,025円	3.360€ / 346,080円
☆ホームステイ（個人部屋・2食付）	160€ / 16,480円	3.840€ / 395,520円
☆共同アパート（個人部屋・食事なし）	100€ / 10,300円	2.400€ / 247,200円

サン・セバスチャン

フランス国境近くに位置し、バスク地方独自の文化が息づく街。「美食の都」として有名で、美味しい魚介類やピンチョスが堪能でき、数多くのバルが軒を連ねる通りはいつも沢山の人で賑わっています。貝殻の形をしたコンチャ湾で海水浴も楽しめます。

<ラクンサ・インターナショナルハウス>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース（20時間/週）	158€ / 16,274円	2.832€ / 291,696円
☆ホームステイ（個人部屋・2食付）	216€ / 22,248円	5.184€ / 533,952円
☆共同アパート（個人部屋・食事なし）	114€ / 11,742円	2.736€ / 281,808円

バルセロナ

スペインの中でも独自の歴史と文化を育んできたカタルーニャの都。スペインが世界に誇る建築家ガウディや、個性的な芸術家ダリ、ミロなど数多く生み出しており、「芸術の街バルセロナ」と呼ばれるほど、今も街のあちこちに多くの芸術作品が残されています。

<インターナショナルハウス　バルセロナ校>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース（20時間/週）	205€ / 21,115円	4.080€ / 420,240円
☆ホームステイ（個人部屋・2食付）	225€ / 23,175円	5.160€ / 531,480円
☆共同アパート（個人部屋・食事なし）	205€ / 21,115円	4.680€ / 482,040円

マドリード

世界的に有名なプラド美術館や王宮、レティーロ公園など見所がいっぱいの活気溢れる、スペインの首都。休日にはショッピングやバル巡りを楽しんだり、アート鑑賞に耽ったり・・・。

マドリードはスペインのほぼ中心に位置するため、他の都市へのアクセスも良好です。

<インヒスパニア>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース（20時間/週）	140€ / 14,420円	2.730€ / 281,190円
☆ホームステイ（個人部屋・3食付）	230€ / 23,690円	5.280€ / 543,840円
☆共同アパート（個人部屋・食事なし）	150€ / 15,450円	3.000€ / 309,000円

ご出発までの流れ

1. 留学カウンセリング、お見積り
   「どの街にしよう？」「費用はどれくらい？」「何から準備すればいいの？」など、漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずはメールやお電話でお気軽にご相談下さい。
2. 具体的に学校、コース、滞在スタイルなどのプログラムが決まれば、留学手続代行申込書を提出
3. 入学手続き開始
4. 航空券や保険、国際キャッシュカードなどの情報収集
5. 学生ビザが必要な方は、申請に必要な書類を集め、在日スペイン大使館へ提出
   90日以内の留学なら学生ビザは不要ですが、91日以上の留学には学生ビザが必要です。短期学生ビザ（91日以上180日以内）取得の場合は、ご出発の約2ヶ月前、長期学生ビザ（181日以上）長期ビザ取得の場合は、ご出発の約3ヶ月前に時間に余裕を持って提出して下さい。
6. 留学費、海外送金手数料のご入金
7. 航空券、海外保険、学生ビザなど必要なものが揃えば、いよいよご出発！

<当サポートサービスの範囲>
・選択された学校への出願サポート
・サポート依頼を頂いた学校が手配するホームステイ、学生寮、共同アパート等の宿泊先申込手続（混雑状況によりご希望に添えない場合がございますので、事前にご確認下さい。）
・留学費用の海外送金
・空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行
※未成年の方は、必ず保護者の方に同意を頂いた上、お申込み下さい。
※パスポートやビザの申請、航空券・海外保険の手配等は含まれません。各自でご準備下さい。
※海外送金手数料（約7,500 円）はご負担となります。

よくあるご質問

Q 語学プラスαでどんな事ができますか？

A フラメンコ、サルサ、スペイン料理、ワインテイスティング、ゴルフ、テニス、サーフィン、スキューバダイビング、スペインタイルなど・・・、様々な楽しいプログラムをご用意。また、50歳以上の方向けに、ゆっくりスペイン語を学び文化を楽しむコースもあります。

Q 留学の費用はどのくらいかかりますか？

A 主にかかる費用の内訳は、入学金、教材費、授業料、滞在費、航空券代、保険代です。学校のプログラムや、宿泊タイプ、都市によって、かかる費用は大きく違ってきます。長期留学される方向けに受講料の長期割引がある学校もあります。

Q どんな滞在スタイルがありますか？

A ホームステイ、共同アパート、学生寮、個人フラット、ホテルなどがあります。

スペイン留学．ｊｐでは、ご希望に合った学校選びや、プランの作成など幅広くお手伝いしております。
漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずは、お気軽にご相談下さい。

【お問合せ】
スペイン留学．ｊｐ
URL：www.spainryugaku.jp
お電話：06-6346-5554
E-mail: info@spainryugaku.jp

https://www.facebook.com/spainryugaku.jp

いいね！ をクリック！
今すぐスペイン留学の最新情報を入手しよう！

FEDELE ANNUAL MEETING 2012

言語を最も効率的に習得する方法は、その言語が話されている国で学ぶことであるのは言うまでもありません。スペインでスペイン語を学ぶことは、言語を学ぶだけではなく、ヨーロッパという地域を実際に肌で感じ、政治、教育、文化、社会的事情を理解するのを容易にします。

スペイン語学校協会（FEDELE）は、スペインにおける質の高い語学サービスの提供をミッションの一つとしています。FEDELEは6つの協会から構成され、それぞれが独自の行動規範を有していますが、共通のガイドラインや教育規範も共有します。現在、FEDELEの傘下には86のスペイン語学校が登録し、ア・コルーニャ、アリカンテ、アビラ、バルセロナ、カディス、カステジョン、グラナダ、ギプスコア、テネリフェ、マドリッド、マラガ、ナバラ、サラマンカ、セビーリャ、バレンシア、バジャドリッド、ビスカヤなどの都市でその活動を展開しています。

FEDELEの運営が始まった90年代、最初のスペイン語学校がアンダルシアで創設されました。以後FEDELEは、スペイン語学校が受講者に質の高い語学サービスを提供しているかを認定する重要な役割を担ってきました。一定の基準を満たす学校にFEDELEが付与する認定証は、スペイン政府管轄のセルバンテス協会（Instituto Cervantes）が公認したものです。つまり、FEDELEに加盟するスペイン語学校は、セルバンテス協会の証明書発行機関が要求する厳格な認定基準を満たさなければなりません。これらの認定証の価値と評価は、スペイン国内にとどまらず、国際的に認知されたもので、FEDELEに加盟するスペイン語学校の高い教育サービスを裏付けるものとなっています。

FEDELE認定のスペイン語学校は、加盟後も、学校の設備、語学講師、カリキュラム、宿泊施設、サポート、活動、保険等の各サービスにおいて、CARTA DE CALIDAD(認定書)に示された教育ガイドラインを遵守します。また、CARTA DE CALIDADは、消費者保護法（2007年11月16日付勅令）に準じています。

FEDELEは毎年、プロモーションの一環として、セルバンテス協会やスペイン観光協会（Turespaña）の協力の下、様々なイベントを開催してきました。例を挙げれば、毎年9月に世界中のスペイン語学校が参加するFEDELE年次会が開催されます。今年は第13回の年次会がカステジョン市で開催され、50以上の関係機関が参加しました。FEDELEが主催するイベントの他に、参加者は文化的プログラムやスペイン中の学校へ訪問する機会に恵まれます。さらに11月には、大学関係者による「スペイン語教育国際会議」が開かれ、今年は1812年のスペイン憲法発布200年記念を祝う趣旨で同会議がカディスで開催されます。

FEDELEは、スペインの言語と文化の普及のため、各関係機関による協力やプロモーション、そして、スペインの中央政府、自治州や地域の政府機関による継続的な支援及び理解がFEDELEの今後の発展のために必要不可欠なものであると考えています。このように、FEDELEは、スペインへ語学留学する学生や社会人の皆さんがスペインで質の高いサービスを享受できるよう最大限のサポートを行なう主要機関なのです。

文　Ana Cozar　翻訳　入山慎一

Ana Cozar　アナ・コサール

1977年、カディス県アルコス・デ・ラ・フロンテーラ生まれ。
大学では言語学を専攻。国際プロジェクトの専門家。
2009年よりFEDELEのマネージャーを努める。

写真：2012年FEDELE Annual meetingの模様

SPAINRYUGAKU.JP
スペイン留学.jp

スペインバスク
サンセバスティアンでおいしい生活①

フランスの国境に近い街サンセバスティアン。鮮やかな緑色の山々と青々とした海に囲まれたこの街の魅力はなんといっても美食の文化。陽気なバスク人達とおしゃべりをしながらバルを巡ると、いつもほっぺたがおちてしまいそうな出会いがある。「食べるって幸せ、生きるって幸せ」ということをいつも思い返させてくれる。そんなこの街の魅力に引き寄せられ、世界中の料理人をはじめ多くの人がこの街を訪れる。

今回ご紹介する方もその一人。現在サンセバスティアンで料理修行中の埴岡さんに話を伺いました。

埴岡龍顕
(はにおか たつあき)

2012年の5月からサンセバスティアンに留学中。現在、ラクンサでスペイン語を勉強しながら、地元のバスクバルのキッチンで料理の修行をしている。

Q. 日本では何をされていたんですか？

→以前は、料理とはまったく関係ない業界で働いていました。でもどうしても「料理人になりたい」という思いが捨てられず、2年前、以前の会社を辞め、日本のレストランで修行を一から始めたんです。料理に関してはまったくの素人だったので、レストランで修行をする傍ら、料理の専門学校にも通っていました。

Q. 今回の留学の目的は何ですか？

→スペインの留学を考え始めたころは、スペインの料理学校に通いたいと思っていました。ただ、まだ自分のスペイン語に自身がなかったので、まずは現地で集中的にスペイン語を学ぶ必要があると思いました。なのでとりあえず、今回はサンセバスチャンの下見を兼ねて、語学研修が一番の目的でした。

Q. サンセバスティアンを留学先に選んだ理由は？

→昔からスペイン料理が好きで、特に"nueva cocina"(新スペイン料理)に心を奪われたんです。伝統的な料理を新しい素材や調理法でアレンジした新スペイン料理ですが、日本では情報が少なく、雑誌のバックナンバーを遡って、あらゆる記事を読んでいましたね。その中で見つけたバスク地方の記事を読んで、スペインでも星つきのレストランが集中する場所と知り、バスクに対する思いが強くなっていきました。

そしてこれも縁としかいいようがないのですが、日本でスペイン語を学んでいた時の先生に、サンセバスティアンのレストランで働いている日本人の方を紹介してもらいました。事前に日本人の知り合いができたことも、心強かったです。その先生からも、日本人の方からも、サンセバスチャンには良いスペインの語学学校があるからという後押しがあり、「ここしかない!」と思いましたね。

あとは、フランスの国境にも近いので、留学中フランスにも遊びに行けるかなと思って(笑)

Q. サンセバスチャンに留学する前に、スペインに来られたことはあったんですか？

→はい、ちょうど留学する1年ほど前に、スペインでタパス・ピンチョス食べ歩き旅行をしましたね。色々なスペインの地方の料理を実際に食べてみたいなと思ったので、バルセロナ、グラナダ、セビリア、マドリッド、セゴビアなどを回り、ひたすらスペイン料理を食べ倒しました。

Q. 留学して最初のころはどうでしたか？

→ とにかく忙しかったですね。午前中はスペイン語の授業、最初の1〜2ヶ月はほぼ毎日、授業が終わった後に、旧市街に出向いてひたすらピンチョを食べ歩きしていました。夕方から夜にかけては、ラクンサで出会った世界各国からの友達と呑みに行ったりしていました。

苦労したことは、スペイン時間です。日本と違い、シエスタで日中お店が閉まる生活は、当初は随分と不便に思いましたし、夕食の時間が9時、10時というのにも、慣れるまでは時間がかかりました。日本だと寝る4時間前は美容と健康のために食べないようにしていたので(苦笑)

Q. 留学中、一番大変だったことは何ですか？

→一度、フランスとスペインの警察に捕まったことですね(苦笑)。とある週末、友達とフランスにあるアジアの食材スーパーに行こうと、スペインからバスに乗っていたのですが、スペインとフランスの国境を越えたところで、私たちの乗っていたバスにフランスの警察が入ってきたんです。その時たまたま、パスポートを携帯するのを忘れていて(汗)結局自分だけバスから降ろされて、フランスには行けず、フランス警察とスペイン警察に4時間くらい拘束されました。

Q. 留学中、楽しかったことを教えて下さい。

→8月の2週目に毎年開催される、セマナ・グランデは楽しかったですね。お祭り期間中、毎日花火があがり、町のいたるところで、色々なイベントやお祭りが開催されていて、日本では経験したことのない貴重な経験でした。そのあとも、9月には世界的に有名なサンセバスティアン国際映画祭もあり、各国スターがこの街を訪れたり。本当に夏はイベントだらけでした。

(後編に続く)

レポート　沼山香織

埴岡さんのインタビューはまだ続きます!次回は、サン・セバスティアンのお勧めバルや美味しいタパスのレシピなどもご紹介します。ご期待下さい!

サンセバスチャンのスペイン語学校
Lacunza ih SAN SEBASTIAN
www.lacunza.com
Email: info@lacunza.com

沼山 香織 (ぬまやま かおり)

東京の旅行会社に勤務後、2010年よりスペインバスク地方に在住。現在は、サンセバスチャンにあるスペイン語学校、Lacunza(ラクンサ)にて働く傍ら、バスクを中心に日本からの旅行者のアテンド・コーディネートを行っている。
Email：xo.kaori.xo@gmail.com

最上級構文について

今回は前回まで2回に渡って取り上げた比較表現に関係が深い最上級の構文を取り上げます。まず、最上級には「相対最上級」（superlativo relativo）と「絶対最上級」（superlativo absoluto）があります。一般の教科書等では前者に限って最上級としていることもあります。そこでまずこちらから確認してみましょう。

Paula es **la más inteligente de** la clase.
パウラはクラスで**最も賢い**。

「定冠詞＋más＋形容詞＋de〜」という構文です。しかし、そもそも《más inteligente》は比較級の作り方でした。つまり、よく考えてみるとこれは比較級の表現を借りているのです。定冠詞（または、所有詞）を使うことによって意味を限定しています。このため「一番〜」「最も〜」という意味が生じるわけです。同時に、比較対象の範囲は《de〜》で表されます。この《de》も「〜の中で」と限定する働きを持っています。つまり、最上級は比較構文の一種とも言えます。このように、スペイン語は英語（long-longer-longest）等と違って、比較級と最上級の本質的な区別はありません。次の例文を比較してみましょう。

Miguel es el alumno que ha estudiado **más que** el resto de la clase.→比較級
ミゲルはクラスの他の人**よりもよく**勉強した生徒だ。

Miguel es el alumno que ha estudiado **más de** toda la clase.→最上級
ミゲルはクラス中で**最もよく**勉強した生徒だ。

比較範囲を限定する部分は先ほど見たように《de＋名詞》が多いのですが、他の前置詞の例もあります。《en〜》や《entre〜》です。

Él es el director más conocido **en la historia del cine**.
彼は**映画史上もっとも**有名な監督だ。

次に《de〜 》を使わないで形容詞で限定することがあります。

La reacción de este jugador ha sido la mejor defensa **posible**.
この選手の反応は最もよい防御であった。

3つ目として関係詞の文を使って限定する方法があります。

Él es el mejor portero **que yo recuerde**.
彼は私が覚えている限り最もよいキーパーだ。

さて、スペイン語では比較級と最上級に本質的な差はないわけですので、副詞の最上級を作るのはちょっと工夫が必要です。

Javier corre **más rápido**.
ハビエルは「より」（または「一番」）速く走る。

これだけでは、比較級なのか最上級なのかわかりません。rápidoは副詞なので定冠詞を付けるわけにいかないからです。比較対象を表す語句（例えばque tú）を付けると間違いなく比較です。

Javier corre **más rápido que** tú.　ハビエルは君**より速く**走る。

一方、最上級にするにも比較範囲を示す語句（例えばde la clase）は付けることができません。そこで一工夫して名詞的な文章にする必要があります。

Javier es el que corre **más rápido de** la clase.
ハビエルはクラスで**最も速く**走る人だ。

次にもう1種類の最上級である「絶対最上級」（superlativo absoluto）を見てみましょう。一瞬、何か難しいものを想像した読者もいるかも知れません。しかし実は初級で習う「muy＋形容詞」こそが絶対最上級なのです。

Paula es **muy inteligente**. パウラはとても賢い。

ここでは"de la clase"などのように範囲を限定しません。比較対象なしで強調するので、「相対最上級」に対して「絶対最上級」と呼ぶのです。

おそらく読者のみなさんが習った絶対最上級はむしろ**-ísimo**を付加するものではないでしょうか。非常によく使われる語形です（***alto→altísimo***）。バリエーションとして***-érrimo***があります（***pobre→paupérrimo***）。また、-bleで終わる語は***-bilísimo***となります（***amable→amabilísimo***）。これら例外はラテン語から由来していますが、そのまま覚えるしかないようです。

一方、単語の頭に付加することで絶対最上級を表す語もあります。***super-***や***requete-***などですが、使用が限定されていますので注意しましょう。

En ese mercado todo es **superbarato**.
その市場では全てが**超安かった**。

ところで、ラテン語の最上級が現在でも使われている語があります（参考のため比較級も挙げます）。

bueno → mejor → óptimo 「最善の」
malo → peor → pésimo 「最悪の」
grande → mayor → máximo 「最大の」
pequeño → menor → mínimo 「最小の」
alto → superior → supremo 「最高の」
bajo → inferior → ínfimo 「最低の」

その他、次のような語も最上級の一種と考えることができます。íntimo（最も内の）、extremo（最も外の）、primero（最初の）、último（最後の）、único（唯一の）、etc. amigo íntimo「親友」、Extremo Oriente「極東」など重要な表現で使われてます。いずれにせよラテン語由来の最上級は本来の最上級の意味が薄れてしまっていることがありますので、用法に注意が必要です。

最後に文法的には最上級でなく比較級なのですが、最上級の意味で使われるものを確認して終わりにしましょう。代表的なのが否定語を利用したものです。

Este año han venido más tifones que **nunca**.
今年は**これまで以上に**たくさん台風が来た。

もちろん他の否定語（nadaやnadie）を使っても原理は同じです。最後に《cualquier otro》を使った例を見てください。

Hoy en día Internet tiene más potencial que **cualquier otro** medio.
今日インターネットは**他のどんな**メディアよりも可能性を持っている。

いかがでしたか。みなさんのスペイン語に対する理解と興味が深まれば筆者にとって最高の喜びです。¡Hasta la vista!

文　仲井邦佳

仲井 邦佳
なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。
京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。
著書に『はじめてのエスパニョール』（共著、三修社）、『中級スペイン語　―文法と演習―』（共著、同学社）などがある。

スペイン語教室アデランテの

スペイン語 ADELANTE www.adelante.jp

はじめてのスペイン語講座

第11回　未来を表す言い方

Hola. みなさん、こんにちは!

今回は、未来を表す言い方についてご紹介したいと思います。

未来を表す、すなわちまだ起こっていないことを表現する場合には、その未来がどのような性質を持っているかによって、その表現方法は変わってきます。より具体的に言うと、明日予定していること（起こる可能性が非常に高い事）と、遠い未来のこと（起こるかどうか確実でない事）では、同じ未来でも表し方が変わります。

この課では、未来を表す表現を学び、その使い分けもあわせてみていきましょう!

#1

① まずは、動詞IRを使って未来を表す形をご紹介します。どのような場合に使うかは、後ほど詳しく説明しますが、この方法では、比較的近い将来の予定・行動を表す事ができます。

この方法であれば、動詞を一つ一つ活用する必要がないので、活用の煩わしさがありません。今夜、明日、来年する予定の事柄についてこの形をどんどん使って表しましょう。

Mañana, Miki va a visitar a sus abuelos.

明日、ミキちゃんはおじいちゃんたちを訪ねます。

APRENDE! 覚えましょう！

未来を表す　「主語は～するつもりです。」の構文

［主語　＋　ir（主語に応じて活用させる）　＋　a　＋　動詞の原形.（主語が変わっても変化なし）］

例 では、練習として、今夜、友人と出かける予定について話してみましょう。

Esta noche,	**yo**	**voy**
	tú	**vas**
	él / ella / usted	**va**
	nosotros	**vamos**
	vosotros	**vais**
	ellos / ellas / ustedes	**van**

＋ a ＋ salir con unos amigos.（数人の）友達と出かける

#2

② 次に学習するのは、未来形の活用です。未来形は、不規則活用は若干あるものの、現在形と違い原形が〈-ar〉、〈-er〉、〈-ir〉のいずれで終わる場合でも、活用はワンパターンですので、比較的覚えやすいのが特徴です。

En el 2050, viajaremos a la luna.

西暦2050年には、
私たちは月へ旅行するだろう。

APRENDE! 覚えましょう！

未来形の活用を行う場合、動詞の原形の後に、主語に応じて、それぞれ〈-é〉,〈-ás〉,〈-á〉,〈-emos〉,〈-éis〉,〈-án〉を付ければ出来上がります。以下の活用例を参照して下さい。

例 〈動詞IRの未来形活用〉

yo	**iré**
tú	**irás**
él / ella / usted	**irá**
nosotros	**iremos**
vosotros	**iréis**
ellos / ellas / ustedes	**irán**

未来形の場合には、ほとんどが規則動詞になりますので、不定詞＋未来形の活用語尾で活用できます。但し、不規則動詞は3パターンありますので、右上を参照して下さい。

不規則パターン①　＜HACER→HARÉ＞
作り方：HACERのC（語幹の最後の文字）とE（語尾の最初の文字）を取って、未来形の活用語尾を付ける。
その他に類似の活用をする動詞：
＜DECIR→DIRÉ＞＊但しDECIRの場合は、語幹のEが更Iに変化するので注意!

不規則パターン②　＜TENER→TENDRÉ＞
作り方：TENERの２つ目のE（語尾の最初の文字）をDに変化させて未来形の活用語尾を付ける。
その他、同じ活用をする動詞：
＜VENIR→VENDRÉ＞,＜SALIR→SALDRÉ＞
＜PONER→PONDRÉ＞

不規則パターン③　＜SABER→SABRÉ＞
作り方：SABERのE（語尾の最初の文字）を取って未来形の活用語尾を付ける。
その他、同じ活用をする動詞：
＜PODER→PODRÉ＞,＜QUERER→QUERRÉ＞

③左のページでは、[ir ＋ a ＋ 動詞の原形]と、[未来形の活用]という２つの形式を学びました。
おそらく、皆さんが疑問に思われる点というのは、二つの使い分けではないでしょうか？冒頭でも、少し触れたように、使い分けのカギとなるのは、"未来に起こる事柄の確実性"です。

例えば、一般的に[ir ＋ a ＋ 動詞の原形]を使う場合は、

① 予定について話したり、自分の意思を表す
② 周りの状況から、起こる確率がきわめて高いと考えられることを表す

[ir ＋ a ＋ 動詞の原形]を使う場合は、直後に起こる事について使うか、いつ起こるかがわかっていることが多いので、「esta noche（今夜）」、「mañana（明日）」、「el año que viene（来年）」などと一緒に使われることが多いです。

これに対して、[未来形の活用]を使う場合は、

① 未来のいつかに起こる可能性があること
② 未来のことを予言するとき

★[ir ＋ a ＋ 動詞の原形]を使う時

右の絵は、今日の午後の予定を尋ねている場面です。左の女性の手には、展覧会のチケットが握られており、彼女はこの後展覧会に行く可能性がとても高いことがわかりますね。こういった場合は、上の①「予定について話したり、自分の意思を表す」に当てはまるため、[ir ＋ a ＋動詞の原形]を使います。

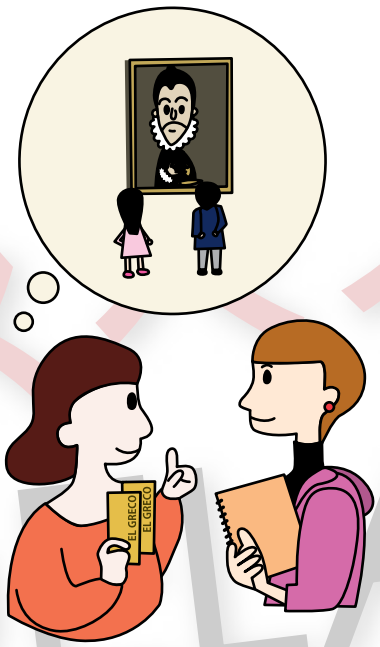
また、このように「いつ」、「何をするか」が明確な予定は、以下の様に現在形を使って表すこともできます。

Voy a la exposición de El Greco esta tarde.
（今日の午後は、エル・グレコ展に行くつもりです。）

[ir ＋ a ＋動詞の原形]は、以下のような場合にも使われます。

Hay mucho atasco.
Vamos a llegar tarde.
（ひどい渋滞です。
私たちは遅刻するでしょう。）

この場合は、「ひどく渋滞している」という状況から、高い確率で「遅刻する」ことがわかるので、②「周りの状況から、起こる確率が高いと考えられることを表す」に当てはまります。



¿Qué vas a hacer esta tarde?
あなたは今日の午後何をする予定ですか？
Voy a ir a la exposición de El Greco.
エル・グレコ展に行くつもりです。

★[未来形の活用]を使う時

次は、[未来形の活用]について見ていきましょう。

上でも説明したように、[未来形の活用]は一般的に、起こるかどうかわからない未来を表す場合に使います。

右の絵は、スペインが大好きなマリさんの、『スペインへ旅行する明確な予定はないけれど、いつか機会があれば行きたいな』といったニュアンスを表します。

また、こんな使い方もあります。

¿Sabes cuántas personas van a venir a la fiesta de Navidad, mañana?
（明日のクリスマスパーティに何人の人が来るか知っていますか？）
No sé. Pero quizás vendrá mucha gente.
（知りません。でも、多分たくさんの人がくるでしょう。）

この様に、確実ではない予想を伝える場合に使ったりします。逆にもし同じ質問に対して正確に何人来るかを知っていれば、

Sí, trescientas personas van a venir a la fiesta.
（はい。パーティには300人来ます。）
と、言っても良いでしょう。

Algún día, viajaré a España.
いつかスペインへ旅行します。

例外
たとえ明確な予定の無い場合でも、[ir ＋ a ＋ 動詞の原形]を使って以下の様に言うこともできます。
Algún día, voy a viajar a España.
ただし、この場合には、自分の強い意志を込めているので、「いつか絶対スペインへ旅行する！」といったニュアンスになります。

今回見てきたことから、未来のことを表す場合には、[ir ＋ a ＋ 動詞の原形]、[未来形の活用]そして[現在形]の３つを使える事がわかりましたね。
未来の種類や話し手の気持ち次第で、使い分けられる未来形は、最初は複雑に感じるかもしれません。また、３つの使い分けには、時として曖昧な場合も見受けられます。実際に使ってみたり、また他の人が使っているのを聞くことによって、使い分けに慣れて来るはずです。是非使ってみてくださいね！

un descanso....

今回は未来形の活用を学習しましたが、実は未来形の活用を使って表す事ができるのは、未来だけではありません。せっかく未来形の活用を使えるようになったので、是非その他の用法についても覚えておきましょう！

未来形の活用を使うと、①[現在の推量]と②[命令]の２つを表すことができます。

①[現在の推量]について

¿Cuántos años tiene José? 『ホセは何歳ですか？』
Hmmm. No sé. **Tendrá** 40 años. 『うーん。知らない。40歳くらいかな。』
※この例文の場合、ホセさんが現在４０歳くらいであることを推量しています。
¿Dónde están tus padres ahora? 『あなたのご両親は今どこにいますか？』
Ahora, **estarán** en Madrid. 『今は、マドリッドにいるでしょう。』
※現在の推測ですので、未来形の活用とAhoraを同じ文章の中で使っても、問題ありません。

②[命令]について

Me **dirás** a qué hora empieza la conferencia. 『講演が何時に始まるか教えて下さい。』
Te callarás y **escucharás** bien lo que te dice la profesora.
『黙って、先生のいうことを良く聞きなさい。』
※命令の意味合いで使う未来形の活用は、主に口語のみで使われます。

一つの活用形でも、使い方によって様々な意味合いを持つ、命令形の活用。実際にどんどん使ってみれば、使い方も身に付いてきます。まずは練習あるのみ！頑張って下さいね。

スペイン語
ADELANTE
www.adelante.jp

・一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベートなど目的やペースに合わせて選べるコース
・ネイティブ講師だからプチ留学気分で自然なスペイン語がマスターできる！
・振替ができるので忙しくても安心！
・月謝払いOK！
・無料体験レッスン、教室見学等☆随時受付中
・2013年1月よりプライベートレッスンのみ日曜予約可

スペイン語教室 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F
TEL: 06-6346-5554・FAX: 06-6110-5122
E-mail: info@adelante.jp・http://www.adelante.jp

イラスト：田中 文子

clic

Centro de Lenguas e Intercambio Cultural

Emoticonos y sms エモティコン（絵文字）とSMSメッセージ

Los emoticonos son un idioma universal en el mundo de Internet y de la telefonía móvil. Por supuesto, los hispanohablantes hacen igualmente uso de los emoticonos, en particular a la hora de chatear o enviar sms.
La etimología de la palabra es bastante evidente: por una parte la palabra "emoción" y por otra la palabra "icono"; fusionando las 2, apareció la palabra emot-i-conos.
Los emoticonos pueden ser sencillos o muy elaborados, pero, para practicar tu español, aprende a usarlos con tus amigos españoles.

エモティコン（絵文字）は、インターネットや携帯電話では世界共通の言語です。もちろんスペイン語圏の人もチャットやSMSメッセージを送る際にエモティコンを使います。

Emoticonoという言葉の起源は明白です：“emoción” 感情という単語と “icono” アイコンという2つの単語が組み合わさってできたのがemot-i-conoという単語です。

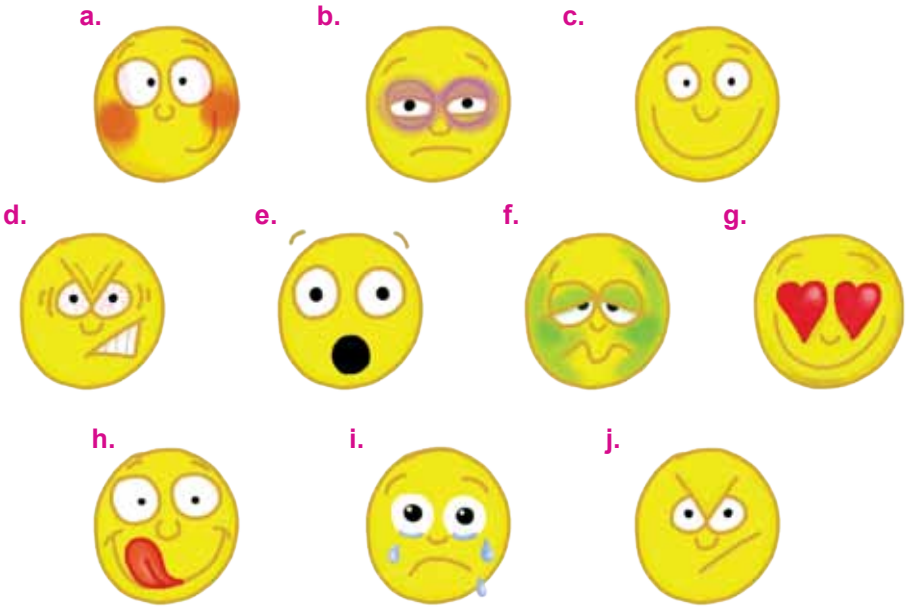
エモティコンは単純な物もあれば凝った物もありますが、スペイン語の練習のためにスペイン人の友人とぜひ使い方を学んで見てください。

A. Ejercicio básico 初級レベルエクササイズ

1. 右のa-jのエモティコンにあてはまる1-10の感情を表す文章を選んで下さい。

1. Relaciona estos emoticonos con el sentimiento que ilustran.

1. Estoy muy contento.
2. Estoy enamorado.
3. Estoy cabreado.
4. Estoy furioso.
5. Estoy triste.
6. Estoy sorprendido.
7. Estoy avergonzado.
8. Me encuentro mal.
9. Estoy cansado.
10. Tengo hambre.



2. 下記の表現にあうエモティコンを考えて、描いてみたり、インターネットで探したりしてみましょう。

2. Diviértete dibujando o buscando tus emoticonos para las expresiones siguiente.

a) Tengo fiebre y estoy enfermo.
b) Soy tímido.
c) Psss... cállate por favor.
d) Estoy durmiendo.
e) Estoy llorando.
f) Estoy aburrido.

B. Ejercicio de nivel medio 中級レベルエクササイズ

Los emoticonos se usan tan sólo partes del rostro y alguna vez las manos. Hay muchas emociones que se manifiestan visualmente en las personas; los ojos, las manos, el cuerpo entero, se manifiestan para expresar emociones o estados físicos.

エモティコンには顔の部分だけ、時には手が使われます。
人は視覚的に伝える感情表現がたくさんあり、目や手、体全体などを使って感情や身体の状態を伝えます。

3. では皆さんの番です。①-⑧の感情表現で現れる身体的な兆候をa)-h)から選んで下さい。

3. Relaciona estas emociones con manifestaciones físicas.

① Tengo vergüenza.
② Tengo frío.
③ No creo lo que estás contando.
④ Estoy sorprendido.
⑤ Tengo sueño.
⑥ Estoy pensando.
⑦ Estoy furioso.
⑧ Estoy contento.

a) El cuerpo tiembla y los dientes chasquean.
b) Los ceños se fruncen, la boca se cierra fuertemente y la piel se pone roja.
c) La boca se abre y se estira de los dos lados enseñando los dientes.
d) Solo uno de los ojos se hace más pequeño y se frunce sólo un ceño. La boca se estira solo de un lado y se mantiene cerrada.
e) La piel de la cara se pone roja y los ojos miran hacia el suelo.
f) La boca se abre del todo en forma de círculo y una mano frota los ojos.
g) Los ojos se abren mucho y en circulo y la boca pone forma de la letra O.
h) La boca se estira cerrada, los ceños se estiran hacia arriba y una mano se posa sobre la cabeza.

clic

amar, vivir
y sentir
en español

スペイン語
コース
セビリア
カディス

International House
Sevilla y Cádiz

クリック・インターナショナルハウス・セビリア&カディス
Email: japan@clic.es （日本語でどうぞ）
www.clic.es

SEVILLA
Accredited by
EAQUALS
EXCELLENCE IN LANGUAGE EDUCATION

C. Ejercicio avanzado 上級レベルエクササイズ

Hoy en día el sms o mensajes de texto forman parte de la rutina diaria española. Debido a las limitaciones de caracteres por mensaje o simplemente con las prisas, con el paso del tiempo se ha ido generando la creación de su propio "idioma". Utilizando abreviaturas o reemplazando sílabas con letras, se ahorra tiempo y dinero.

今やSMS（ショート・メッセージ・サービス）や携帯のメッセージは日常生活の一部になっています。スペインでは1メッセージで送れる文字数に制限がある為、制限内で書ける様に、もしくは単に急いでいる為、スペルを省略しながら書かれた単語が独自の"言語"になっていきました。時間と通信料を節約のため、略語を使ったり、発音そのままに書いたりします。

4．次の文章は正確にはどのように書くか考えてみてください。
例：tb= también, q = que

4. Averigua la definición de las siguientes frases.
Por ejemplo: tb= también, q = que

1) t aptc q ns tmamos algo?
2) Stoy knsada, no e pdido drmir nad sta noxe
3) M nknta sta kncion
4) TQM
5) Ns vmos dirctamnt alli, bss
6) Voy n bus, llgare n med hora + o -
7) Ns tmamos 1 kfe?
8) Cnd ns vmos? Tng muxo q contart
9) Ers muy wena gnt, y tb muy wapa
10) Xq nstros no podms ir? Tb tnmos muxas ganas

Claves:
Ejercicio 1: 1.-c, 2.-g, 3.-j, 4.-d, 5.-i, 6.-e, 7.-a, 8.-f, 9.-b, 10.-h

Ejercicio 2: libre

Ejercicio 3: ①-e, ②-a, ③-d, ④-g, ⑤-f, ⑥-h, ⑦-b, ⑧-c

Ejercicio 4:
1) ¿Te apetece que nos tomamos algo?
2) Estoy cansada, no he podido dormir nada esta noche.
3) Me encanta esta canción
4) Te quiero mucho
5) Nos vemos directamente allí, besos
6) Voy en bus, llegaré en media hora más o menos.
7) ¿Nos tomamos un café?
8) ¿Cuándo nos vemos? Tengo mucho que contarte.
9) Eres muy buena gente, y también muy guapa.
10) ¿Por qué nosotros no podemos ir? También tenemos muchas ganas.

エコ・エスパーニャ（その２）
「身近な自然に学ぶ」

小川には水鳥が泳ぎ、野には野うさぎが駆け回る。こんなにものどかな風景が、マドリッドの中心からわずか20kmのところにひろがっている。ここは「Parque regional del Sureste（南東州立公園）」と呼ばれる自然保護区。かつてこの周辺は国王の直轄領だった。現在、この公園には、環境教育センターが作られ、平日は学校の子ども向けに、週末は家族・一般向けに自然保護への理解を深めてもらうためのワークショップなどが開かれている。

興味津々で野菜の説明をきく子どもたち

センター内にはいろんな野菜が栽培されている

「Parque regional del Sureste」の周辺には麦畑や工場地帯がひろがる

植物になって答えるロールプレイイングゲーム

ときには野うさぎを見かけることも

この日、ここ「カセリオ・デ・エナーレス環境教育センター」を訪れていたのは、小学１～２年生の子どもたち。十数名のグループに分けられ、それぞれが全体の説明を受けた後、菜園でクイズに答えながら野菜にじかに触れたり、ときには食べたり、自然保護をテーマにした寸劇をやったり、都会ではなかなかできない土いじりをしたりして、自然の中でさまざまなことを学びながら数時間を過ごした。

参加料はすべて無料で、前もって予約を入れるだけ。週末には、有機農業教室やガイドつきの散策ツアーといったアクティビティも用意されており、毎年、のべ1万6千人ほどが活動に参加しているという。

すぐそばには、畑として格安（250㎡年間180ユーロ）で貸し出されている土地があり、都会に住む人たちが、楽しみながら野菜づくりにはげんでいる。

マドリッド州では、1998年から環境教育センターの設立が始まり、現在11あるセンターでは、住民の自然保護に対する意識を高める教育を行っている。

もちろんマドリッド州以外にも環境教育センターはたくさんある。早々と脱原発政策をとり、風車や太陽光などを利用した再生可能エネルギー大国といわれるスペインならではの試みである。

文・写真　篠田有史

篠田有史
しのだゆうじ/Yuji Shinoda

1954年岐阜県生まれ。フォトジャーナリスト。
24歳の時の1年間世界一周の旅で、アンダルシアの小さな町Lojaと出会い、以後、ほぼ毎年通う。その他、スペイン語圏を中心に、庶民の生活を撮り続けている。
【写真展】　スペインの小さな町で（富士フォトサロン）、遠い微笑・ニカラグア（〃）など。
【本】　「ドン・キホーテの世界をゆく」（論創社）「コロンブスの夢」（新潮社）「リゴベルタの村」（講談社）などの写真を担当。

スペインのお勧めバール／レストラン

第５回　LA BODEGUILLA　（ラ・ボデギージャ）

エストレマドゥーラ州の州都メリダは、推定紀元前25年にエメリタ・アウグスタという都市名でアウグストゥス帝の命令によって設立され、ローマ属州ルシタニアの州都となった。「メリダの考古遺産群」は1993年ユネスコの世界遺産に認定され、観光客で一年中賑わっている。そんなメリダでお勧めのレストランは超穴場のラ・ボデギージャであろう。このレストランの自慢は何と言ってもPARRILLADA（パリジャーダ）と呼ばれるバーベキューで、素材の旨味を封じ込める樫の炭を使った料理には評判が高い。21種もあるパリジャーダ料理の中から特にお勧めなのは、FAMOSA PARRILLADA DE VERDURAS A LA BRASA（ファモサ・パリジャーダ・デ・ベルデゥーラス・ア・ラ・ブラサ／野菜のバーベキューグリル）である。驚く旨さとはまさにこの料理で、それは感動に値する。エストレマドゥーラという土地柄イベリコ豚の料理も充実しており、また秋から冬にかけてはキノコ類もお勧めだ。手作りデザート類も少々田舎センスは隠せないものの、その味はお墨付き。ただし一品の量が多いので頼みすぎに注意。サービスもとても早く気持ちよい。コストパフォーマンスが素晴らしいのでグルメには真にお勧めできるレストランである。お見逃しなく!

文・写真　田中富子

田中 富子　たなかとみこ / Tomiko Tanaka

日本にてフォワーダー、米通信機会社勤務後、2001年よりセビージャ在住。
2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アンダルシア州立ハエン大学にてバージン・オリーブオイル・テイスターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリーブオイル・エキスパートに。現在は、食品輸出入仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳、留学コーディネーター等スペインと日本を橋渡し中。誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。
HP：www.creapasion.com / http://spain.fc2web.com/

左：バールの奥にレストランスペースがある
上：CHULETÓN DE RETINTO A LA BRASA（牛グリルステーキ）18ユーロ
下：FAMOSA PARRILLADA DE VERDURAS A LA BRASA 10ユーロ

● 住所：C/Moreno de Vargas, 2, Mérida
● 電話：+34 924 31 88 54
● HP：http://merida.portaldetuciudad.com/restaurantes-donde-comer/la-bodeguilla/002_41672.html

注意：上記情報は、2012年10月時点のもので変更する可能性があります。

西宮市国際交流協会

スペイン語おしゃべりの会　活動のご紹介

2012年9月16日に開催された『スペイン語おしゃべり会』では、スペインの歴史の中で常に中核を成し、レコンキスタでも中心的役割を果たしたCastilla y León自治州の歴史と文化について、同州を故郷とするJesús Ángel Martín Sánchez氏に語って頂きました。同氏は画家とイラストレータの肩書きを持つ若いアーティストです。因みに、本誌第10号（2012年8月31日発行）に同氏が描いた2012年欧州選手権で優勝したスペインサッカーチームの選手の素晴らしい似顔絵が載っています。

参加者の理解を助けるため、予め内容を箇条書きにした資料の配布してくれましたので、さまざまな民族が入り組んだ複雑な歴史や文化を、大変楽しく興味深く聴くことが出来ました。

歴史面では、この地方の古代からローマ、西ゴート、イスラムの支配時代からレコンキスタの英雄EL CIDまで時系列に詳しくお話頂きました。また、文化面ではこの地方のフォルクローレ、大頭の巨人のかぶりものでのパレードの祭り、スポーツ、料理の紹介も映像を駆使しての紹介がありました。

実に盛りだくさんの内容で予定の時間に収まらず、すっかり時間をオーバーしてしまいしたが、参加者全員が熱心に聞き入り、時間の経つのも忘れるほどでした。

なお、本誌発行時には既に終了しておりますが、2012年最後のおしゃべり会は11月17日（土）に開催。京都在住のスペイン人女性、María Ángeles Cejador Ambrojさんによるアラゴン地方の楽しいお話をしていただきました。会の様子は次号にてご報告を予定しております。是非ご期待ください。

文・写真提供　谷善三

カスティージャ・イ・レオンの歴史と文化をわかりやすく紹介

スペイン語おしゃべりの会　活動記録

日　時：2012年11月17日（土）午後2:00-3:30
場　所：（公財）西宮市国際交流協会　会議室
テーマ：アラゴン地方を旅する
ゲスト：María Ángeles Cejador Ambrojさん（スペイン出身）

＊2013年、第1回目のおしゃべり会は、3月にコスタリカの方をお招きして開催予定です。

第一回全国学生フラメンコ大会を終えて

去る9月17日、京都外国語大学の森田記念講堂にて、第一回全国学生フラメンコ大会が開催されました。

本大会は、同大学にあるフラメンコ同好会Girasolが、スペイン語学科とともに開催した、全国で初めての学生フラメンコ大会です。第一回目の今回は、6つの大学から約30人が出場し、日頃の練習の成果を発揮して、集まった300人余の観客を魅了しました。

私たち京都外国語大学フラメンコ同好会Girasol（スペイン語で、「ひまわり」の意）は、部員数７名の小さな団体です。全国規模のフラメンコ大会を主催するには、15人以上の部員を抱える団体が指揮をとるものだと思っていました。しかし、今回私たちがこの全国学生フラメンコ大会を開催しようと考えたのは、ほかでもない自分たちのためでした。

私たちは昨年まで毎年、三重県のパルケ・エスパーニャで開催されていたフラメンコ大会“Fiesta de Flamenco”に参加していました。夏休みの思い出といえばFiesta de Flamenco!と言うほど、この大会に向けて練習に明け暮れました。しかし、残念ながら私たちは一度も入賞を果たすことができないままでした。大会が終わった後には涙が溢れるほど悔しく、この大会で賞を獲得することは、いつしか大きな目標となっていました。

しかし、今年３月に大会が開催されない旨の通知を受け取り、突然その目標が消えてしまいました。それに代わる大会も見つからず、これから何を目標に部活を続けていけばいいのだろうかと悩んでいました。そんな時、顧問の先生から「それなら、自分たちで大会を作ったらいいじゃない」と言われたことをきっかけに、部員一丸となって準備したのが今回の、第一回全国学生フラメンコ大会です。

準備で苦労したことと言えば、参加校集めと観客集めです。参加校への呼びかけは、まったくのゼロからのスタートでした。インターネットでフラメンコ部のある大学を検索したり、他大学の知人・友人に尋ねたりして、参加を呼びかけました。また、多くの方に大会の事を知って頂くため、大学近辺の駅やお店にポスターを貼らせてもらったり、大学の企画広報部を介して京都新聞に取材していただいたりしました。出来る限りの準備をしたものの、反省点は多く、開演まで何人のお客様に足を運んでいただけるのか、不安で一杯でした。

そして当日、フラメンコ愛好家の方々をはじめ、地元の方も大勢集まってくださり、大会は盛況のうちに無事終えることができました。参加者の中には、当日体調が万全でなかった方もいましたが、皆、精一杯輝くことができたのではないかと思います。

この大会は、私たちだけでは実現することはできませんでした。とりわけスペイン語学科長の坂東先生には、貴重な時間を割いて様々な準備をしていただきました。山本秀実先生、阿藤久子先生、カルメン白鳥先生は審査員として大会に華を添えてくださいました。また、当日は、スペイン語研究会の皆さんをはじめとする多くの方にバックアップして頂きました。心から感謝しています。

この大会を企画、開催する中で、私たちは、多くを学び、また同時に多くの課題を見つけることが出来ました。来年は、更にたくさんの方にフラメンコを知ってもらうためにも、今年よりもっともっと見応えのある大会にしたいと思っています。是非見に来てください！

文　京都外国語大学フラメンコ同好会Girasol

【第１回全国学生フラメンコ大会結果】
第一位　京都外国語大学フラメンコ同好会　Girasol
第二位　日本学生フラメンコ連盟FLESPON関西支局有志
第三位　神戸松蔭女子学院大学・神戸大学　El aire
審査員特別賞　山崎桃子（神戸松蔭女子学院大学）
審査員特別賞　國本里香（京都外国語大学）

京都外国語大学フラメンコ同好会 Girasol

写真提供　京都外国語大学

"ESPAÑA FOTO A FOTO"

CONCURSO FOTOGRÁFICO スペイン写真コンクール

第１回 スペイン写真コンクール受賞作品
タイトル：Mont Serrat
撮影者：中村保ノ佳

おめでとうございます。受賞者の中村様には、編集部より素敵な賞品をお送り致します。

第２回スペイン写真コンクール作品募集

【応募締切】 **2013年1月31日**

【応募要項】

1.18歳以上であればプロ・アマ、出身地問わずどなたでもご参加できます。

2.各自自由にお選びいただいたスペインに関するテーマで1作品のみ受け付けます。カラーでも白黒でもどちらでも結構です。ご自身の作品に限ります。また、他のコンテストで受賞された作品はご応募できません。

3.写真サイズは、1024ピクセル×760ピクセルにしていただき、**(info@acueducto.jp)**までご応募ください。プリント写真は受け付けておりません。
下記の必要事項を添えてご応募ください。
1. 氏名
2. 国籍
3. お住まいの都市
4. 写真のタイトル
5. 年齢
6. メールアドレス

4.公序良俗に反するもの、人種差別やテロ行為を駆り立てるような作品の応募は許可なく取り消します。

5.写真はウェブページ（www.acueducto.jp）にて公開される予定です。ネット上の公開、雑誌『acueducto』への掲載、優秀作品の展示会などにおいて、無償で利用させていただきます。商業目的での使用は一切いたしません。

6．弊誌編集部にて、入賞作品一点が決定されます。

入賞作品は次号に掲載され、入賞者には賞品が贈られます。

「エル・グレコ展」大阪・中之島で開催中！

前号の特集でもお伝えしました通り、スペインを代表する画家エル・グレコの回顧展「エル・グレコ展」が、10月16日に大阪・中之島の国立国際美術館で開幕しました。スペインやアメリカ、イタリアなど各国からエル・グレコの作品を51点集め、国内史上最大の規模で多彩な画業を紹介しています。

見逃せないのは、高さ３メートルを超す祭壇画「無原罪のお宿り」。エル・グレコが死の前年まで手を加え続けていた最高傑作の一つです。聖母マリアを中心に、上昇するエネルギーに満ちた作品は、会場でもひときわ迫力があります。

展覧会は12月24日まで。是非お見逃しなく！

会期：10月16日（火）～12月24日（月・休）
会場：国立国際美術館
開館時間：午前10時～午後5時、金曜日は午後7時
（入館は閉館の30分前まで）
休館日：月曜日（ただし12月24日は開館）
展覧会の最新情報は公式サイトで　http://www.el-greco.jp/
お問い合わせ：国立国際美術館（代表）06-6447-4680

エル・グレコ展の様子　（写真提供：朝日新聞社）

スペインサッカーを巡る

-1-

スペイン代表チームは、2008年ヨーロッパ選手権、2010年ワールドカップ、2012年ヨーロッパ選手権、全てで優勝を飾り、現在名実ともに世界最強のチームであることは間違いなく、その一試合、一試合に世界が注目している。

「世界最強の国は？」と聞かれれば、「スペイン」と言い、「世界最強のチームを作れ」と言われれば「FCバルセロナ」もしくは「レアル・マドリード」の選手を多く選出してしまうのではないだろうか。それ程に現在スペインのサッカーは世界的に注目されており、特に「FCバルセロナ」（以下バルサ）、「レアル・マドリード」（以下マドリ）はスペイン国内でも「別世界（Otro mundo）」と呼ばれ、羨望と嫉妬の対象となっている。

そのバルサとマドリの試合は「エル・クラシコ *(El Clásico)*」と呼ばれ、スペイン国内の視聴率は50％を越えるほどの盛り上がりをみせる。他のチームのファンであってもその試合を観に行きたいと思うほどの一大イベントであり、クラシコの前になると、スポーツ番組はシーズンを通してお互いの試合分析や、先発予測、選手、監督、クラブの会長等のコメントで一色になる。

昨シーズンの話になるが、昨シーズンはリーグ、トーナメントを合計して、6回のクラシコが行われた。1シーズンにそれほど多くのクラシコが行われることは稀で、正直1シーズンに5回も、6回もクラシコがあるとその貴重さ、重要性を見失ってしまいそうになっていた。しかし、やはり「それ」はスペインで特別な意味を持っており、地元バレンシアの試合がある時ですら一杯にならないバルが、クラシコの時だけは前もって予約をしてないと入れない緊急事態に陥り、試合開始時には人で溢れかえり立ち見まで出る状態にまで膨れ上がる。たとえそれが、少しは飽きが来ても良さそうな6回目であっても状況は変わらない。この街、この国の人にとってクラシコの持つ意味の大きさに感動すら覚えた瞬間であった。

実は、スペインにはクラシコのようにライバル関係にあるチーム同士の試合がたくさん存在しており、それらの試合は「ダービー（スペイン語でデルビー/Derbi）」と呼ばれている。ここでは、その中でも有名なものをいくつかご紹介したい。

【エル・クラシコ：FCバルセロナ vs レアル・マドリード】
前述通り、スペインだけでなく、世界中が盛り上がるダービー

【セビージャ・ダービー：セビージャFC vs レアル・ベティス】
スペイン国内のダービーだと一番危険かも。お互いのファン同士が喧嘩することもしばしば。警察も危険試合として指定しているくらい。でも、しっかりと準備すれば大丈夫!!一見の価値あり!!

【マドリー・ダービー：主にレアル・マドリードvsアトレティコ・マドリード】
富裕層（レアル）と労働階級層（アトレティコ）の戦い。マドリード市内では、クラシコを凌ぐ盛り上がり。

【バレンシア・ダービー：バレンシアCF vs レバンテUD】
私の住む街、バレンシアのダービー。イマイチ盛り上がりにかけていたが、昨年リーグ成績が、バレンシアが3位、レバンテが6位ということで、お互いが位置関係を意識し始め、今年から再度盛り上がり始めている。

文　尾崎 剛士

尾崎剛士
おさきつよし/
Tsuyoshi Osaki

29歳、愛媛県出身。
2006年まで筑波大学蹴球部にて選手、少年サッカー指導者として活動。引退後は大学院に進学、その後就職し、サッカーの現場から2年離れる。2010年から町田高ヶ坂SCにて指導を再開。2011年10月にバレンシアに渡り、アルボラヤUDでサッカーの第二監督として指導を始める。昨シーズンはベンハミン（U-10）を率いて、リーグ優勝を果たす。

バレンシアのスペイン語学校
Costa de valencia
www.costadevalencia.com
E-mail: info@costadevalencia.com
Costa de Valencia
escuela de español

イラスト　Jesús Martín Sánchez
jesusmartinsanchez.com

LIBRO
本

掲載書籍のお問合せは：
有限会社ADELANTE
www.adelanteshop.jp
TEL:06-6346-5554
Email： info@adelanteshop.jp

スペイン語書籍のご紹介

課題を通して、実践力を身につける！ 総合スペイン語コーステキスト☆
GENTEシリーズ

多彩なアクティビテイが満載。教科書とワークブックが
一つになった教材、Aula Internacional

中学生・高校生向けのスペイン語学習総合テキスト
GENTE JOVENシリーズ

一冊でA1～B1までの3レベルをマスターできる教材、Vía Rapida
DELE試験のレベルB１受験対策用としても使用可能

流暢かつ正確なスペイン語運用能力の習得を目的として生まれた、上級者向け総合スペイン語テキスト

内容、デザインなど、全ての面で
改良されたAbanicoの新版が登場

学習者が楽しく学べるよう考慮され、
興味を引きつけるデザイン性の高い学習テキスト BITÁCORA

LA ESENCIA DEL JAPONES

- 日本語のエッセンス -

筆者の日本語教師としての経験を生かして書かれた、スペイン語話者のための数少ない日本語学習本です。

わかりやすくシンプルな構成で、使い勝手の良い ¡Nos vemos! シリーズ
様々なクラスに対応できるよう、タイプの違うテキストのラインナップ。

VÍCTOR Y LOS VAMPIROS

児童文学の執筆を中心に活躍するバルセロナ出身のマイテ・カランサによる作品。
日本人になりたいと思うほど日本が大好きな11歳のビクトルのお話。

CRÓNICAS DE LO IMPOSIBLE

スペインの若き詩人ルル・ソツエラによる短編集。
人間の存在、生きる意味、心の闇が的確に、時にユーモアを込めて綴られた一冊。

【日本語版】サグラダ・ファミリア物語
ISBN:9788499790114
【スペイン語版】PEQUEÑA HISTORIA DE LA SAGRADA FAMILIA
ISBN:9788499790039

【日本語版】ピカソ物語
ISBN:9788483340493
【スペイン語版】PEQUEÑA HISTORIA DE PICASSO
ISBN:9788499790367

【日本語版】バルセロナの物語
ISBN:9788499791623
【スペイン語版】PEQUEÑA HISTORIA DE BARCELONA
ISBN:9788499791579

愛らしく繊細な絵の世界が本いっぱいに広がる「小さな物語」シリーズ

270冊を誇る「小さな物語」シリーズの舞台は、スペイン・カタルーニャ地方が中心。小さな街から歴史あるモニュメント、だれもが知っている有名なアーティストまで様々なタイトルが揃っています。

イラストを手がけているのは、50年以上にわたり独特のタッチで繊細な世界を表現するイラストレーターのピラリン・バジェス。カタルーニャ出身の彼女はバルセロナの学校で美術を学び、ユーモアたっぷりでやさしいピラリンの世界を確立しました。

日本語版とスペイン語版の両方が揃っているタイトルもあり、スペイン語学習の副読本やスペインが大好きな方へのプレゼントとしてもぴったりの一冊。

【日本語版】ダリの物語り
ISBN:9788483342961
【スペイン語版】PEQUEÑA HISTORIA DE DALÍ
ISBN:9788499790626

【日本語版】ガウディ物語
ISBN:9788499791241
【スペイン語版】PEQUEÑA HISTORIA DE GAUDÍ
ISBN:9788499790473

新刊書籍のご紹介

実践!ビジネススペイン語ハンドブック
【著者】高木和子
【監修】坂東省次
【出版社】インタースペイン・ブックサービス
【定価】2,940円(税込)
【ISBN】9784990576615

【たくさんの可能性を秘めた成長言語　スペイン語】

旅行、歴史、サッカー、音楽、料理などいろいろなモチベーションでスペイン語を学び始めた方がいらっしゃると思います。
実は「経済・ビジネス」の領域はまだまだ奥が深く、そして、これから更に伸びていく分野だと考えられます。BRICsやNEXT11というキーワードでお馴染みの「新興国」の中には、今後大きな経済発展の見込まれるスペイン語を話す国が含まれています。スペイン語は、たくさんの可能性を秘めたこれから成長する言語だと言えます。

この度、京都外国語大学坂東先生とFINA先生のご協力を賜り、「実践!ビジネススペイン語ハンドブック」を上梓させていただきました。スペイン語を今までの私的な領域の趣味の言語から、公的なオフィス・仕事の場で使える言語への転換をしたいと考えている学習者の方に気軽に手にとっていただける、徹底的に「実践的な」ハンドブックです。

【スペイン語をツールとして使いたいというモチベーション】

「スペイン語でかかってくる電話に対応するのが難しいので、週末に参考書を書店で探してみたのですが適当なものがみつからなかったのです…」

このハンドブックの執筆は、新人スタッフＹさんのこの一言から始まりました。日本でも有数の外国語大学のスペイン語学科でみっちり４年間スペイン語を学び、留学も経験し、優秀な成績で卒業したＹさん。文法・語彙ともに上級レベルのスキルを持っているにもかかわらず、スペイン語でかかってくる電話やスペイン語でのメール作成に四苦八苦しています。Ｙさんにとってスペイン語は学問の対象であり、何か目的を遂行するためのツールではなかったのです。そこに戸惑いが生じるのも無理はありません。

Ｙさんの姿は、1990年初頭にマドリードの邦銀駐在員事務所で働き始めたときの私自身の姿と重なります。

当時の私のスペイン語力は、仕事で使えるレベルには到底達しておらず、毎日オフィスの電話が鳴るたびに憂鬱な気分になっていました。そんな姿をみかねたスペイン人の同僚が、電話応対の決まり文句の一覧表を作ってくれたり、レターのひな形を作ってくれたり、あれこれと手助けをしてくれて、ようやく独り立ちができたのです。

以来、私は20年以上にわたってスペイン語をビジネスのツールとして使用してきました。Ｙさんの一言にヒントを得て、その「経験」を一度棚卸しし、整理してみようと考えました。そうすることで、Ｙさんのようにスペイン語をある程度マスターした学習者が、いざスペイン語で何か目的を遂行したいと考えたときに役立つような「知恵」に転換できるのではと考えました。

【スペイン語という言語で市場を捉える】

共通の言語を使用する集団を同じ言語で結ばれた「一つの商圏」と見なす考え方からスペイン語を見てみましょう。

2011年にギャラップ社がEU地域内のネットユーザーに対して行った調査によると、回答者の44%はネットショッピングをする際に、母語でのサイトが無いために購買機会や意欲を失っていると答えています。「自分の母語で商品やサービスを正しく理解できる」、あるいは「自分の母語で気持ちを伝え理解してもらえる」ということは、消費者にとって一つの価値(valor)となります。それはつまり、企業にとっては収益の源泉となるといえます。

そのような視点でスペイン語圏4億5千万人を一つの市場と捉えるといままで見えていなかったスペイン語の可能性が見えてくるのではないでしょうか。

文　高木和子

高木和子　たかぎかずこ / Kazuko Takagi
有限会社インタースペイン代表取締役
ビジネススペイン語インストラクター
セルバンテス文化センター通訳養成コース講師
グロービス経営大学大学院MBA

絵画ポスター
サイズ：29.6 X 23.9 cm
価格：各1.260 円
www.adelanteshop.jp

1

2

3

4

1. バルセロナ・サグラダ・ファミリア　2. アンダルシア地方・パティオ
3. マドリッド・メトロポリスビル　4. マドリッド・マヨール広場
＊その他、『バルセロナ・グエル公園』や、『ひまわり畑』もございます。
お気軽にお問い合わせ下さい。

【お問合せ・ご注文は】　有限会社ＡＤＥＬＡＮＴＥ
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F
TEL: 06-6346-5554　FAX: 06-6110-5122　E-MAIL: info@adelanteshop.jp

マドリッドの夜（11）

Excmo.Sr.D.Jesús Pedroche
Consejero de la Presidencia
Comunidad Autónoma de Madrid
Puerta del Sol No.7
E-28013 Madrid ESPAÑA

Londres, 4 de septiembre de XXXX

Excmo. Señor:

Unas lineas para ponerle al corriente de un suceso acaecido en Madrid recientemente.

El 25 de agosto pasado mi hija y yo viajamos a Madrid, desde Londres, con la intención de poder descansar algunos días en la capital. Tan solo 30 minutos después de nuestra llegada al aeropuerto de Barajas, las vacaciones familiares se vieron truncadas por un pinchazo provocado y caímos en la miseria.

Alquilamos un coche AVIS en el aeropuerto de Barajas y tomamos dirección hacia Zaragoza pero nos encontramos que la entrada a la autopista estaba cerrada. Me dirigí hacia la ciudad desde allí, por la calle de Alcalá intentando entrar en la Nacional II. Fue en esta calle cuando un coche (este fue el primer coche) nos indicó que llevábamos una rueda pinchada. Paré el coche y efectivamente una rueda estaba deshinchada. Allí, se acercaron dos personas (un señor de unos 40 años y una mujer de la misma edad pasando como su esposa) que vinieron de un segundo probable coche y se ofrecieron a ayudar a cambiar la rueda.

Le agradecí el ofrecimiento y nos pusimos a cambiar la rueda. Mi hija permaneció cerca del coche con el equipaje. La señora le recomendó que cambiara de lugar el equipaje y lo puso delante del coche. Probablemente durante este cambio un tercer grupo o tercer coche se lo llevó silenciosamente. Durante el cambio de la rueda el gato que se estaba usando se rompió repentinamente(?), pero perdí la esperanza de salir de ese apuro. Pero los señores se ofrecieron llamar a la grúa y de nuevo acepté agradecido que lo hiciesen.

Se marcharon y no los hemos vuelto a ver. Fue entonces cuando mi hija se dio cuenta de que faltaban dos piezas del equipaje.

Esta es la historia de lo que me ha ocurrido a los treinta minutos de mi llegada a Madrid.

（以下省略）

上記は私が嘗て、駐在していたロンドンから久しぶりでやって来たマドリッドで遭遇したドロボーの告発文である。宛先はマドリッド州政府宛となっている。写しをバラハス空港の警察署長宛とスペイン最大の日刊紙エル・パイスと在スペイン日本大使宛としてそれぞれにロンドンから郵送した。

内容は、ロンドンからマドリッドに到着してわずか３０分で地獄に落ちたストーリーである。その日私はバルセロナにホームスティしていた次女とマドリッドのバラハス空港で落ち合った。そしてかねて予約してあったＡＶＩＳでレンタカーを借りて出発した。ところが高速道路への入り口が閉鎖されていたので（バカンスシーズンにそんなことがるのかと訝しがりながら）一般道路に出た。そこへ後ろから来た車が「おまえの車がパンクしている」と教えてくれた。止めてみると確かにパンクしている！（今、レンタルしたばかりだというのに！）そこへ「親切な」おじさんとおばさんが現れた。彼らは「パンク盗」の一味であった。今にして思えば全てがうまく出来上がった悲劇（喜劇？）の始まりであったのだが・・・。

悲劇の結末は、次女のバッグと小生のバッグが我々の死角からグループのリレーにより音も無く消えていた。次女のバッグには貴重なパスポートと、１ヶ月のホームスティでの思い出の品々が一杯詰め込まれていた。小生の被害はカメラのほか、ロンドンに着任以来書き続けていた日記帳が失われたのが大きかった。

次女のパスポート再発行までマドリッドに足止めされた私と娘は、その夜は海鮮料理のレストランO'PAZOでたらふくやけ食いをしたのであった。マドリッドの夜のなかでも、最も暗い一夜であった。

尚、上記の告発文は間もなくエル・パイス紙の社会面の投書欄に丸まる掲載された。マドリッドの友人からその記事が後日ファックスで送られてきた。私は今でもその記事を大切に保管してある。事件から数日後のエル・ムンド紙には第一面に「バラハス空港を中心に暗躍している窃盗団はチリー人グループとアルジェリア人グループである」という記事が載っていた（捕まったとは書いていなかった）。その日は我々がマドリッドを立つ日であった。（つづく）

文・写真　桑原真夫

桑原真夫

くわばらまさお / Masao Kuwabara

詩人・エッセイスト　広島県鞆の浦出身、北大卒。
1977年よりほぼ毎年スペインを訪問。1984年から1989年まで銀行員としてマドリッドに駐在。ヨーロッパ在住約14年。
スペイン関係主要著書；『斜めから見たスペイン』（山手書房新社）、『それぞれのスペイン』［共編著］（山手書房新社）、『スペインの素顔』（河出書房新社）、『スペインとは？』（沖積舎）、『ロサリア・デ・カストロという詩人』（沖積舎）、『我が母へ（ロサリア・デ・カストロ）』（沖積舎）、『ガリシアの歌・上巻及び下巻』（上下とも行路社）、『スペインのガリシアを知るための５０章』（明石書店、共編著）、『花へ』［写真詩集］（山手書房新社）、『ルース・ポソ・ガルサ詩集』（土曜美術社出版販売）他多数。『スペインの王権』（中公選書、川成洋・坂東省次・桑原真夫共著）を近刊の予定。

新刊

ルース・ポソ・ガルサ詩集
【著者】ルース・ポソ・ガルサ[著]
桑原真夫 [翻訳]
【出版社】土曜美術社出版販売
【定価】1,400円＋税
【ISBN】9784812020203

大海原

第１章

私は、ベレングエラ・オルティスと申します。父の名は、フェリペ・オルティスです。カスティーリャ王国の貴族の家に生まれた父は、若いころ、わが母、カタリーナ・パルドと知り合いました。ところが、母は、その時すでに、貴族のゴンサロ・パディリャの妻だったのです。もっとも、母は、両親のすすめに従って結婚したにすぎなかったのですが・・・。おまけに、ゴンサロ・パディリャは、けっしていい夫とはいえず、結婚生活もうまくいってはいませんでした。

私の両親は、こっそりと、逢瀬を重ねました。もちろん、それがキリスト教の教義に反することとはわかっていました。もし、だれかに見つかったら、罪人と告発され、罰せられることでしょう。

そこで、両親は、何もかもを捨てる決意をしたのです。貴族の家系もカスティーリャ王国も・・・。ふたりは、カタルーニャに向けて旅立ったのです。父は、船乗りになりたいという夢をもっていましたから、海に面したカタルーニャを選んだのでした。私は、その旅の途中、アラゴン王国で生まれたのです。

両親は、新天地で、粗末な家を住まいとし、夫婦のふりをして暮らしはじめました。父は、とても勤勉で努力を惜しまなかったので、造船所の仕事を手に入れることができました。才能もあったのでしょう。とうとう航海術まで身につけたのです。船乗りになりたいと、長年夢みていた通り、水を切って大海原を進む大型漁船での仕事につきました。

しばらくすると、母は、ふたたび、妊娠しました。それは、私が９歳のときのことでした。生まれた弟、ディエゴは、私たち家族の質素でも幸せな生活に、新たな喜びをもたらしてくれました。ところが、母は、出産を境に、少しずつぐあいが悪くなっていきました。そして、３年後に高熱を出し、とうとう亡くなってしまったのです。

父は、自分が航海に出ているときに、私と弟だけを家に残すことはできないと、船主にかけあい、私とディエゴも船に乗り込めるようにお願いしました。

今、まさに、船に乗り込むところです。こんどの船は、小さい船ではありません。未知の大海原を航海する大きなガレー船です。それは、新たな領土を求め、新たな産物を発見し、それを取引することで、ひと財産手に入れようとする人たちが乗り込んだ希望の船でした。

作　María Parra　校正　Miguel A. Carroza
訳　坂東俊枝

María Parra
マリア・パラ

アストゥリアス出身。３２歳。イラストレーションを学んだが、幼い頃より物語に興味をもつ。近年、文学作品の校正にたずさわる知人のすすめで、作品の執筆をはじめる。

¡生徒募集中!

舞踊・カンテ・ギター・パルマと
フラメンコの全てをトップレベルの
指導を行う当教室で始めませんか!
全くの初心者の方から
プロ志望の方まで
入会随時受付中!

ACADEMIA DE FLAMENCO KEIKO ISHIKAWA
石川敬子フラメンコ教室
■ 忍ヶ丘 ■ 大正 ■ 長居 ■ 岐阜
TEL 072-877-6664 URL http://www.estudiopepa.jp/

ギター・カンテクラスは御大アレグレの直接指導

COLEGIO DE ESPAÑA
Since 1973
www.colegioespana.com | info@colegioespana.com
INTERNATIONAL SPANISH COURSES
Learn Spanish in Salamanca
・バラエティー豊かなコース
・一年を通して入学可能
・シニア歓迎
・講師向けトレーニング
・資格のあるネイティブ講師陣
・アクセスの良い好立地
・厳選された宿泊先を紹介
The best option to learn Spanish
CEELE
fedele
Calle Compañía nº 65 - 37002 Salamanca - Spain
Tel. (+34) 923 21 47 88
Fax: (+34) 923 21 87 91

スペイン菓子
サン・オノフレ
〒851-2106
長崎県西彼杵郡時津町左底郷２９０－１
℡095-860-8180 FAX095-860-8181

El español abre las puertas de tu futuro
スペイン語はあなたの未来を開く
スペインで専門分野を極める！留学相談も受付中
レベルや目的にあわせた８コース
スペイン語会話コース
映画サロン
作文添削コース
DELE対策コース
文法コース
ビジネススペイン語
翻訳添削コース
通訳養成コース
EXTENSION
日本スペイン文化経済交流センター エクステンション
www.extensionspainjapan.com
Tel. 06-6251-2686 exosaka@osb.att.ne.jp

acueducto
スペイン情報誌acueductoでは、
広告を掲載して下さる企業や
個人の皆様を募集しております。
１枠あたり5000円より掲載可能。
詳しくはお問合せ下さい!
TEL. 06-6346-5554
E-mail: info@acueducto.jp

フラメンコスタジオ ミゲロン
Flamenco Studio MIGUELON
現役で活躍中のプロが講師をするフラメンコ教室

●ダンス(バイレ)クラス
60分×4回 10,500円
●ギター・歌・パルマクラス
40分×3回 10,500円
生徒募集中!
●石橋スタジオ 池田市井口堂1-9-3 センチュリーショウエイVII1F
●梅田スタジオ 大阪市北区太融寺町8-10 梅田高速ビル604
※ダンス(バイレ)クラス 十三スタジオ(アルディエンテ)にて開講中!
Tel 072-760-4858
E-mail miguelon@nifty.com WEB http://www.miguelon.jp/

スペイン語作文の方法(表現編)
小池和良 著 四六変形判 290頁 CD付 定価2,730円
課題文139・練習417題を訳しながら、文脈に応じた適切な語彙や表現を選択した上でスペイン語を書く力を養成。実践的な解説と豊富な例文によって、語彙の選択のミスを避ける語感を習得。課題文139の日本文・スペイン語解答例を対訳形式でCDに収録。本書にでている語彙や表現を網羅した詳しいスペイン語・日本語索引付。

〒162-0805 東京都新宿区矢来町106
Tel. (03)3267-8531 http://www.daisan-shobo.co.jp
第三書房

SpanishCommunications
㈱スパニッシュコミュニケーションズ
www.spacom.jp
03-5709-9251
スペイン留学.com
「スペイン留学.com」で検索

難破船の残した友情
DEL NAUFRAGIO A LA AMISTAD
監督・脚本: ゴンサロ・ロブレド
音楽: エルンスト・レイスグル・制作: 2009年、パチェ株式会社
ドキュメンタリー 60分 スペイン語(日本語字幕) NTSC
税込価格: 3,990円
絶賛好評発売中!
お問合せ・お求めは、ADELANTESHOPへ!
ADELANTESHOP(アデランテショップ)
URL : www.adelanteshop.jp
TEL:06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122

フラメンコスタジオ ルイサ
山内恵子フラメンコ クラス
Estudio Luisa

優雅に、激しく、繊細に・・・
フラメンコの魅力を感じてほしい。

これからフラメンコを始めようとしている方。
興味はあるのだけれど、踊れるかどうか心配な方。
以前習っていたけれど・・・ブランクのある方。
どうぞお気軽にお問い合せください。

初級～プロまで養成
（直接指導）

生徒募集中！

無料体験レッスン実施中！ ※予約制

まずは ご予約・お問い合せください
フラメンコスタジオ ルイサ
TEL./FAX.06-6561-0916
H.P. 090-3675-5718
afrwg309@oct.zaq.ne.jp

◆詳しくは http://luisa.littlestar.jp をご覧ください。

イラスト
デザイン
マルティン・サンチェス
martin sanchez
画家
www.jesusmartinsanchez.com
iesusangel@gmail.com

スペインタイルの総付け教室
& 手作りタイル販売
スペインタイルアート工房
Tokyo/Osaka/Valencia (Spain)
大阪市西区南堀江 1-20-23-1003
Tel & Fax 06-4390-6545
Email: spaintile@japan.email.ne.jp
http://homepage1.nifty.com/spaintile/

スペイン語学習コース

スペイン語学習
＋各種アクティビティ＋
宿泊先

通年、年齢不問、レベル別クラス（初級～上級、DELEコース、個人授業 他）

COLEGIO DELIBES

確かな技術と音楽する心を育てる
吉川二郎ギター教室
初心者歓迎！
コンサートフラメンコギター
クラシックギター & ギタルパ
花屋敷教室（宝塚市）
天満橋教室（大阪市）
東京教室（月1回）
静岡教室（月1回）
ギターサークルJIRO（富士市）
お問合せ・入会のお申込みは
TEL&FAX.072-793-8684
詳しくはホームページで
吉川二郎 検索

"VICENTE DEL BOSQUE"
プログラム
スペイン語学習＋サッカー＋宿泊先
7月～8月
colegiodelibes
Avda. Italia, 21
37007 Salamanca (España)
delibes@colegiodelibes.com
www.colegiodelibes.com

Yunoフラメンコ教室
神戸校・姫路校
TEL:090-2701-7952 / 078-797-4303
E-mail:tacon.tacon@docomo.ne.jp

タパスからパエリアまで
大阪堺は深井の
スペイン料理のお店
Barrante
バルランテ
スペインコース・飲み放題付き 2時間 お一人様 ￥3,980
堺市中区深井沢町3126
TEL 072-278-1178
OPEN 17:00～25:00
毎週火曜日定休
http://www.barrante-hukai.com

電話応対からプレゼンまで
そのまま使える定形フレーズ満載！

書名：実践！ビジネススペイン語ハンドブック
ISBN ： 978-4-9905766-1-5
定価 ： 2800円（税抜き）
発行日： 2012年10月1日
出版元： インタースペイン・ブックサービス
著者 ： 高木 和子
有限会社インタースペイン代表取締役
ビジネススペイン語インストラクター
グロービス経営大学院大学MBA
監修 ： 坂東 省次 京都外国語大学教授

ご注文はセルバンテス書店まで
03-6424-4335 interspain.ocnk.net

Costa de Valencia
escuela de español
すべてのレベルに対応可能
（初級～教師研修まで）、
1クラス最大8人まで、宿泊施設完備、
毎週アクティビティ有り、
DELE対応授業有り、
サッカー観戦&プレー、お祭り、
綺麗な海、暖かい気候、日本人生徒歓迎。
www.costadevalencia.com
info@costadevalencia.com
Av. Blasco Ibáñez, 66
E-46021 Valencia

CURSOS DE ESPAÑOL
～スペインとバスク文化の融合の街の伝統校～
- スペイン語一般コース
- スペイン語+インターンシッププログラム
- スペイン語+バスク料理
- スペイン語+サーフィン
- ホームステイ、ルームシェア、送迎サービス等

親切なスタッフと細かなサポート
一年を通して、短期留学から長期留学が可能

ラクンサ・インターナショナルハウス・サンセバスチャン
info@lacunza.com
www.lacunza.com
International House San Sebastian

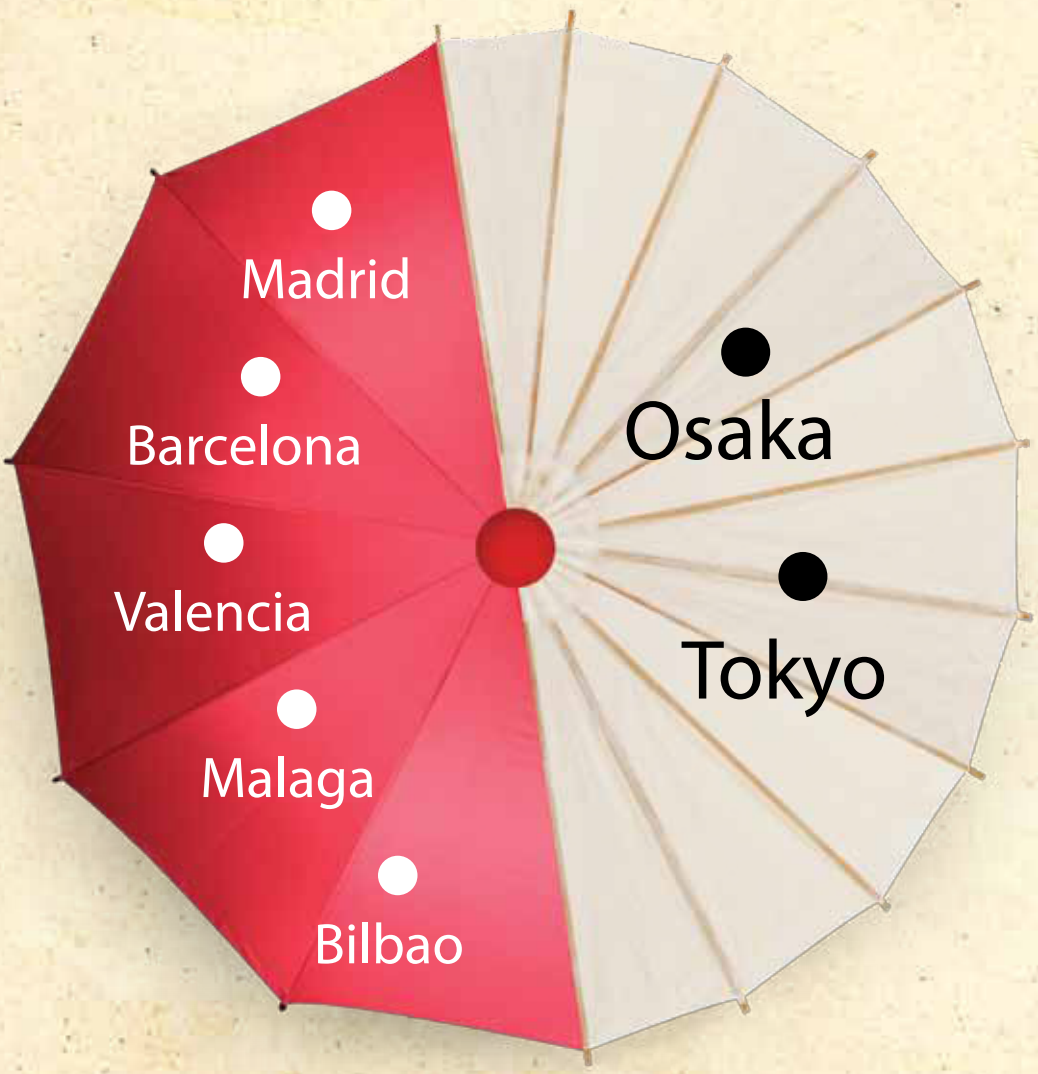
Estudio HISAKO
岡島久子
フラメンコ教室
初心者～経験者クラス, キッズ,
プライベートレッスン他 見学・体験OK!
イベント出演や出張レッスン等のご相談も大歓迎です。
【大阪校】 天満駅前スタジオ：大阪市北区錦町3-5 サポービル2F
福島スタジオ：大阪市福島区鷺洲2-10-5 スタジオTriunfo
【枚方校】 枚方駅前スタジオ：枚方市新町1-2-3 枚方TAKE2ビル3F
E-mail e-hisako@e-hisako.jp TEL 090-3052-2993
http://www.e-hisako.jp/

Europe's
Best Airline

A STAR ALLIANCE MEMBER

トルコ航空でスペイン5都市へ

トルコ航空なら関空および成田からイスタンブールを経由して
バルセロナ、マドリード、ビルバオ、マラガ、バレンシアへ。
さらに2013年6月にはサンティアゴ・デ・コンポステーラへの就航も予定しております。



スカイトラックスで2年連続ヨーロッパベストエアラインに
選ばれたトルコ航空で快適な旅を
We are Turkish Airlines, we are globally yours.

turkishairlines.com

Globally Yours

TURKISH AIRLINES

LIBROS
ADELANTE書店

スペイン語の本 & 雑貨

www.adelante-shop.jp

学習テキスト、文法問題集、レベル別副読本、
D.E.L.E. 試験対策本、絵本など
各種取り扱っています。送料全国一律280円
8,000円以上のお買い上げで送料無料!

スペイン語 ADELANTE

www.adelante.jp

Tel: **06-6346-5554**
Fax: 06-6110-5122
email: **info@adelante.jp**

「私のスペイン語、通じた♪」を実感

- **ネイティブ講師**だからプチ留学気分で自然なスペイン語をマスター
- 定員**6名まで**の少人数制**グループレッスン**
- ヨーロッパ共通参照枠**CEFのレベルに即した**カリキュラム
- 振替ができるので**忙しくても安心**
- 楽しい交流**パーティーや文化イベント**でスペイン語仲間がいっぱい
- **目的やペースに合わせて選べるコース**
  (一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート・
  スペイン語の本を読むコースetc.)

無料体験レッスン随時実施中！
お気軽にお問合せください。

www.adelante.jp

スペイン語教室 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F
TEL: 06-6346-5554・FAX: 06-6110-5122
E-mail: info@adelante.jp・http://www.adelante.jp

【お問合せ】 TEL: **06-6346-5554** / email: **info@spainryugaku.jp**

スペイン＆中南米への留学相談、手続き代行無料サービス

安心して出発できるよう、全力でサポートいたします

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて豊富なラインアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続きまで無料でお手伝いいたします。語学留学、シニア向けのロングステイプログラム、スペイン語＋フラメンコ、スペイン料理、スペインワイン講座、など楽しいプログラムもあります。

スペイン全土、メキシコ・チリ・ペルーなど数多くの語学学校と提携

言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。
入学申請書類の作成や必要な書類の送付、留学費用の海外送金などは全て代行いたします。

- 学校への出願サポート
- 学生ビザ申請書記入のお手伝い
- 留学費用の海外送金
- ホームステイ、寮、又はシェアフラット、アパート等の申込み
- 空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行